

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立今市小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○国語科では、4・5・6年生とも市・県・全国平均を上回った。  
 ○算数科では、4・5・6年生とも市・県・全国平均を上回った。  
 ○理科では、県・全国平均を上回った。  
 ●4・5年生の国語科において、最終問題の無回答割合が約20%だった。国語の問題を解く時間が足りなかったと感じている児童が4年生:41.9%、5年生:61.4%がいることから問題を早く読む力に課題が見られる。  
 ●6年生の算数では、分数の問題において、数や言葉を使った説明の無回答割合が約18%だった。分数の意味理解とともに、数や言葉を使った説明力に課題が見られる。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○文章を読んで内容を捉え、選択肢の中から正答を選ぶこと。 ●自分の考えがあっても、条件を満たすように記述すること。 ●文章を注意深く、正確に読むこと。 ●主語、述語の関係を捉えること。	□自分の考えを明確に伝えるための話し方、記述の仕方のトレーニングを積む。 例:授業後の振り返りを活用し、自分の言いたいこととその理由を端的に書く経験を重ねる。 2者択一をさせ、選んだものとその理由をスピーチする。
	5年	○文章から情報を読み取り、決まった正答を選ぶこと。 ●条件付きの文章を書くときに、文のつながりを意識し、考えをまとめて書き表すこと。	□相手に伝わるように自分の考えを書くことができるために、次の習慣をつける。 ①声に出して読む。 ②自分の考えを整理して書く。 ③読み直す。
	6年	○ほとんどの項目について全国平均を上回った。 ○話し手の意図を想像しながら読む問題は、特に正答率が高かった。 ●複数の情報を正しく読み取り、条件に沿った文章を書いたり、端的に書いたりすること。 ●時間内に長い文章を読み、題意を把握すること。	□条件つき、または端的に表す文章を書くことの経験を重ねる。 □音読の経験を積ませることで、文章の内容を考えながら読むことに慣れる。 □読書経験や辞書を引くなどの経験を積むことで、学習で使える語彙を増やす。
算数	4年	○基礎的な計算や図形の構成に関すること。 ●問題文を正確に読み取ること。 ●倍を求めること。	□問題文の中で問われていることに下線を引く。 □情報を図に表し、数量の関係を捉える。
	5年	○式の意味を理解すること。 ●図や式、言葉を使って、説明すること。	□式の意味を説明したり、立式の理由を説明したりする活動を継続する。
	6年	○角の大きさ、分数の計算に関わること。 ●分数の意味理解に関わること。 ●図や式、言葉を使って、説明すること。	□グラフの読み取りや必要な情報の読み取りなどを丁寧に指導する。 □式の意味を理解し、説明する活動を継続する。 □分数の基本的概念や小数との関係を丁寧に指導する。
理科	6年	○基礎的な知識に関わること。 ●言葉を使って、記述して説明すること。 ●観察・実験の結果から分かったことを身の回りの事象とつなげて考えること。	□学習した内容を身の回りの事象に結び付けて考える活動を丁寧にを行う。 □結果から分かったこと等を自分の言葉でまとめたり、説明したりする活動を継続する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすること。 ●題意を正確に捉えたり、自分の言葉で伝え合ったりすること。	□自分の考えや感じたことを言語でアウトプットする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○授業で学んだことを使って、家で、同じような問題に取り組んだり、新しい問題に取り組んだりする家庭学習をすること。 ●予習をすること。	□予習の問題を取り入れる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域や社会をよくするために何をしたらよいか考えること。 ●地域や社会の現状を知った上で、課題を持つこと。	□まずは、学級生活の中で課題を持ち、解決を図る経験を重ねる。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生の国語の平均正答率は、出雲市・全国平均正答率を大きく下回った。
- 4年生の算数の平均正答率は、出雲市の平均正答率をやや下回り、全国平均正答率を大きく下回った。
- 5年生の国語・算数の平均正答率は、出雲市の平均正答率を上回り、全国平均正答率と同程度だった。
- 6年生の国語の平均正答率は、島根県・全国平均正答率と同程度だった。
- 6年生の算数の平均正答率は、島根県平均正答率をやや上回り、全国平均正答率と同程度だった。
- 6年生の理科の平均正答率は、島根県平均正答率を上回り、全国平均正答率と同程度だった。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読みや聞き取り問題は、市の平均正答率を大きく上回るものもあった。 ●主語と述語の関係性についての問題は、市の平均正答率を大きく下回った。 ●文中における言葉の意味についての問題は、市の平均正答率を大きく下回った。 ●条件を満たしながら作文する問題は、市の平均正答率を大きく下回った。	□主語と述語については、既習の知識ではあるが、普段あまり使われていないことが想像される。言葉の学習を中心に主語や述語を含める既習事項を復習する時間を意図的に設ける。 □算数と同様に国語の学習中でも、物語の設定を考えたり、課題の焦点化を図ったりする個人思考の時間を設定していく。
	5年	○話し合いの内容を聞き取る問題は、全国正答率を大きく上回った。 ○漢字を書く問題は、全国正答率を大きく上回った。 ●文章を書くことに課題がある。 ●作文の条件の理解に課題がある。	□読むことの学習を強化する。 □活字を追う力(追視能力)を付ける。音読・視写・暗唱の力を付ける。 □書くことの条件を意識して、日ごろから書く経験を増やす。朝活動などショートタイムで、構成に気をつけて書く指導を行う。書き方の例を示したり、パターン(型)を示したりし、苦手な児童も取り組みやすくする。
	6年	○言葉の特徴や使い方についての問題は、全国平均正答率を大きく上回った。 ●記述式の問題は、全国・県平均正答率を大きく下回った。	□目的や意図に応じて書く力を身につけるために、要約学習を日々の授業に取り入れるとともに、自分の考えを言葉にできるように、対話的活動に取り組む。
算数	4年	○基礎・基本的な計算問題は、わり算を除いては、市の平均正答率と同程度だった。 ○「数と計算」についての問題は、目標値と同程度かやや上回った。 ●「時ごとと時間」についての問題は、市の平均正答率を大きく下回った。 ●「量と測定」「データ活用」についての問題は、市の平均正答率を大きく下回った。(ただし、時間が足りなかった可能性も考えられる。)	□平均正答率を大きく下回る領域や単元については、朝のモジュール等を活用したり、タブレットドリル等のAIツールを活用したりして、繰り返し練習をしていく。 □記述問題などの活用問題にも対応できるように、ペアやグループ、自分なりのノートまとめなどで問題に対する考え方や解法を説明し合う時間を設け、全員が学んだことをアウトプットできる時間を確保する。
	5年	○技能的な計算など、基礎・基本的な問題は、全国平均正答率と同程度である。 ●活用問題は、全国平均正答率を大きく下回った。 ●図形の性質や三角定規の角度を活用する等の図形の領域問題は、全国平均正答率を大きく下回った。	□「なぜそうなるか」という理由を言葉や式、図などを活用して説明する活動を取り入れる。 □既習事項を思い出させ、前学年との内容のつながりを意識しながら授業をする。
	6年	○数量関係を式に表す問題や基本的な図形の問題は、全国・県平均正答率を大きく上回った。 ●図形の性質や記述式の求積問題は、全国・県平均正答率を大きく下回った。	□様々な図形の問題のパターンに取り組む経験を増やし、図形の性質の理解を定着させる。 □自分の考えを記述してまとめたり説明したりする機会を増やし、思考力や表現力を高める。
理科	6年	○「生命」を柱とする領域の知識・技能に関する問題は、全国・県平均正答率を大きく上回った。 ●記述式の問題について、「地球」を柱とする領域の問題は、全国平均をやや下回り、「生命」を柱とする領域の問題は、全国平均を大きく下回った。	□差異点や共通点を見出し、言葉にしてまとめ、説明する活動の充実を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○分からないことがあってもあきらめずに方法を考えたり、分からなかった点を見直したりしようとする項目が、全国平均に比べて大きく上回った。 ○話し合いで積極的に話したり、相手の話をしっかり聞いたりしている児童が多い。 ●授業の中で、分からないことを質問する児童が少ない。	□学習内容を理解しているか確認する時間や児童同士で考えを交流する場を意図的に設けることで、質問しやすい雰囲気を作る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○勉強する場所を決めて進んで勉強したり、自分で計画を立てて勉強したりしている児童が多い。 ●辞書を活用したり、家で本や新聞を読んだりする児童が少ない。	□辞書の活用や、読書や新聞プリントの宿題を出したり、自学のメニューに加えたりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の人に授業や放課後等に、学習や体験活動などで関わってもらっていると感じる児童が多い。 ●地域の行事に参加する児童が少ない。	□地域行事への参加の呼びかけや地域講師の活用等を行い、地域との連携をさらに深める。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

第4学年の市学力・学習状況調査  
 ○国語は市の平均正答率を下回っており、算数は市の平均正答率をやや下回っている。  
 第5学年の市学力・学習状況調査  
 ○国語・算数ともに市の平均正答率と同程度である。  
 第6学年の全国学力・学習状況調査  
 ○国語は、県の平均正答率を大きく上回り、全国の平均正答率もやや上回っている。  
 ○算数・理科は、全国の平均正答率と同程度である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○説明文の中心となる語や文を見つけ、内容をとらえたり要約したりする問題においては、目標値を大きく上回っている。 ●主語と述語の関係性についての問題では、目標値を大きく下回った。 ●条件に合わせて文章を書く問題では、目標値を大きく下回った。	□読むことや書くことを学習する際に、主語と述語の関係を確かめながら展開し、既習事項との関連を図る。 □デジタルドリルなどを活用して復習を行い、言語事項に関する内容の定着を促す。 □各教科の授業において自分の考えを書く活動を取り入れ、段落分け等の条件に合わせて短作文を書いたりする活動を積極的にを行い、書く力の向上を図る。
	5年	○話し合いの内容を聞き取る問題では、目標値を大きく上回っている。 ●「資料から読み取ったことを取り入れる」などの条件に合わせて文章を書いたり、自分の考えを書いたりする問題では、目標値を大きく下回った。 ●説明文の内容や段落の関係を聞き取る問題での正答率が低い。	□さまざまな教科・領域の学習において、資料を読み取る経験を重ねる。 □「自分の考え」と「それを支える事例」との関係を明確にしながらかく活動を、授業や朝学習に取り入れる。 □中心となる語や文に着目しながら学習をし、文章の内容を適切にとらえる力を高める。
	6年	○話し合いのキーワードを図に表して語句の関係性を表す問題では、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ○意図に合わせて書き方の工夫を問う「書くこと」に関する設問では、いずれも全国の平均正答率を上回っている。 ●資料の内容を読み取って自分の考えを持ち、その根拠を引用や要約してまとめる問題では、全国平均正答率とほぼ同程度となった。	□デジタルドリルの活用や復習の機会の設定を行い、適切な漢字を選んだり文字を書いたりする力の定着を図る。 □文章の内容を要約する学習や、資料から読み取ったことを根拠として自分の考えを構築する学習を積極的に取り入れ、内容を適切に読み取る力の定着を図る。
算数	4年	○「数と計算」領域の問題では、ほとんどの問題で目標値と同程度の正答率となっており、計算が概ね正しくできていた。 ●式から考え方を聞き取る問題や、計算の根拠を説明する問題においての正答率は、目標値を大きく下回った。 ●分数の仕組みを問う問題の正答率が目標値を大きく下回った。	□小数や分数の学習では、図や線分図、数直線を使い、量感を意識しながら数をとらえることができるようにする。 □数が何を表しているのか意味を確かめたり説明したりする活動を学習の中に取り入れ、数への理解を深める。
	5年	○割合に関する問題では、目標値を大きく上回っている。 ○「データの活用」領域において、表から読み取れることを考察する問題の正答率は目標値を大きく上回っている。 ●数量の関係を式に表したり、計算で求めたりする問題では、目標値を大きく下回った。 ●分数・小数の計算や計算の順序、角の大きさを求める問題などの正答率が目標値を下回った。	□デジタルドリルの活用や復習の機会の設定を行い、数量の関係や計算のきまりに関する内容を中心に既習事項の理解と定着を図る。 □言葉や式、図など、様々な方法で求め方を説明する活動を多く取り入れ、学習内容への理解を深める。
	6年	○分数の計算をする問題では、全国の平均正答率を上回っており、意味を適切にとらえて計算することが概ね正しくできていた。 ○題意に合わせて必要な数量を見だし、求め方を説明する問題では、全国平均正答率を大きく上回っていた。 ●図形の意味や性質、面積の求め方に関する問題では、全国の平均正答率を大きく下回った。	□既習事項の復習を行い、学習内容の定着を図る。 □言葉や式、図など、様々な方法で求め方を説明する活動を多く取り入れ、学習内容への理解を深める。
理科	6年	○植物の発芽や生長に関する「生命」領域の問題は、いずれも全国平均正答率を上回っている。特に知識・技能の定着をはかる問題の正答率が高い。 ●電気回路や水の状態変化についての問題は、全国の平均正答率を下回った。	□デジタルドリルなどを活用し、これまでの学年で学んだ内容の復習を行い、理解と定着を図る。 □実験や観察、機器の操作を実際に経験することを今後も大切にし、実体験を伴いながら学び、理解を確かめたい。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「必要な情報を見つけて読む」「どのように考えたのかを説明する」のように、目標の達成に必要な力を意識して学習していると回答した児童の割合は県平均を上回っている。 ○話し合いに積極的に参加することや、他者との対話によって課題解決を図ろうとすることに対する肯定的回答の割合が高い。 ●ICTを活用して、情報収集や発信ができる児童の割合は多いが、考えを比較したり協力したりすることに役立つと感じている児童の割合は低い。 ●学習の振り返りを次の学習や実生活につなげていると感じている児童の割合が低い。	□クラウド環境の活用を積極的にを行い、多様な考えと自分の考えを比較しながら学びを深める実践を重ね、対話的な学びを充実させる。 □学習の振り返りで分かった点やもっと追求したいことについて見つめることを大切にし、主体的に学習に取り組む意欲を高める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○自分で計画を立てて学習に取り組む児童の割合が全国平均よりも高い。 ●読書が好きな人の割合が低い。 ●自分の考えと比べながら新聞を読んだり、学習したことを家の人や友人に話していることは少ない。	□新聞記事や図書を活用した学習を取り入れる。また、学習に関連する図書の紹介を行ったり、家庭読書の取組を継続したりして、児童の読書意欲を高める。 □自分でめあてを立てて取り組み、自己調整を図りながら学習することを呼びかけ、主体的に学習に向かう意欲を高める。
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」という設問への肯定的回答率が高い。 ○健康に過ごすために学んだことをしっかりと役立てていると答えた児童が県平均より多い。 ●「地域の行事に参加している」児童は、全国平均を大きく下回っている。	□生活科や総合的な学習の時間等で地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域への関心や愛着をさらに高める。 □地域への関心が高まるよう、行事やイベントなどの紹介を行う。 □児童の学力向上のために、望ましい生活習慣づくりをめざした学習を計画的に実施したり、家庭への働きかけたりすることを継続していく。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生国語は、市平均正答率をやや上回っており、全国平均正答率と同程度である。
- 4年生算数は、市平均正答率と同程度である。
- 4年生算数は、全国平均正答率を大きく下回る。
- 5年生国語は、市平均正答率と同程度である。
- 5年生国語は、全国平均正答率より下回る。
- 5年生算数は、市平均正答率と同程度である。
- 5年生算数は、全国平均正答率より大きく下回る。
- 6年生国語は、県平均正答率をやや上回っており、市・全国平均正答率と同程度である。
- 6年生算数は、県平均正答率をやや上回っており、市・全国平均正答率と同程度である。
- 6年生理科は、県平均正答率を上回り、市・全国平均正答率と同程度である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明文の内容の読み取りは、目標値に達している。</li> <li>●司会の役割を果たしながら話し合うことや考えをまとめることに課題がある。</li> <li>●漢字を書くことに課題がある。</li> <li>●主語、述語、漢字のへんやつくりなど言語理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□司会を立てて話し合いや討論会などを行い、自分の考えをまとめる活動を行う。</li> <li>□タブレットドリルなどを活用し、言語についての基礎理解の定着を図る。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話の中心を聞いて捉える力が高い。</li> <li>●読解力と根拠を明確にして表現することに課題がある。重要な情報とそうでない情報の取捨選択をすること、豊かな語彙力の獲得に関すること、根拠や理由に基づいて筋道立てて説明すること、自分の考えと根拠となる事例をつなげて作文することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□短作文シートを活用することで、筋道立てて物事を考えたり、論理的な思考力の育成を育んだりする。</li> <li>□日々の授業において、アウトプットの機会を増やしていく。同時に、アウトプットの方法も児童に適したものが選択できるようにICTの活用等工夫をしていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の特徴や使い方に関する事項(漢字)は、正答率が高く、全国平均よりやや上回る。</li> <li>○記述式の問題の無回答率が低く、全体的にねばり強く回答しようとする態度が見られる。正答率は同程度。</li> <li>●読むことの領域は、正答率が全国平均より下回り、課題がある。特に、文章の構成や内容を捉えることは、大きく下回り、課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□物語や説明文の読むことの単元で、順序や段落相互の関係、文章の構成など、読み取る視点を明確にして正しく読み取り、読み取る授業を充実していけるようにする。また、分かったことや自分の考えを表現する機会を増やしていくことで、学習への意欲を高め、内容の理解を定着できるようにする。</li> <li>□朝の読書タイムなどに、読んだ本の内容や感想を紹介する場を設定することで、読むことを習慣化し、関心を高め、文章の大体の内容を捉える力を高めているようにする。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形領域、測定領域では、正答率が高い。</li> <li>●乗法の式に表すこと、倍の見方に課題がある。</li> <li>●解答について、理由を説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□基準量、割合、比較量の関係についてくり返し指導し、倍の見方について理解を深める。</li> <li>□授業において、立式や解法について子ども同士で話し合う場面や考え方を図や文で表す機会を増やしていく。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な四則計算では正答率が高い。</li> <li>●図形領域に課題が見られる。解答の求め方や考え方の説明をする場面(記述式問題)での正答率が低い。</li> <li>●データの活用領域に課題が見られる。グラフや表の結果から考察する問題での正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□図形領域に関しては、具体的な操作活動を重視した学習活動を充実させ、体験を伴った理解を促していく。</li> <li>□データの活用に関しては、社会科や理科など他教科と関連付けた指導をしていく。(図表、グラフの読み取り方、考察の仕方等)</li> <li>□系統性を意識した授業づくりを心がける。</li> <li>□日々の授業において、アウトプットの機会を増やしていく。同時に、アウトプットの方法も児童に適したものが選択できるようにICTの活用等工夫をしていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「測定」領域や分数の加法は、全国平均より上回る。</li> <li>●「データの活用」領域では、全国平均より下回り、グラフの読み取りや二次元の表などから条件に合った項目や必要な情報を選ぶことに課題がある。</li> <li>●正答率が20%～40%の児童の割合が、全国平均よりやや上回り、課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□データ活用・分析については、理科や社会科など他教科と関連付けた指導をしていく。またデータに基づいた課題解決のプロセスを生かした授業を展開し、特にデータからどんなことが言えるか等のデータの分析を行う学習を展開する。</li> <li>□知識・内容を定着できるように、授業での支援をいねいに行い、家庭学習や帯時間などで、デジタルドリルやワークなどを用いて既習内容を復習する時間を確保し、やりきることができるようにしていく。また間違えた問題やテスト直しなど、間違いへの分析や対策を全体や個人で行うようにしていく。</li> </ul>
理科	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能は、全国平均をやや上回り、定着が見られた。</li> <li>○「生命を柱とする領域」(へちまの花のつくりなど)は、全国平均を大きく上回り、知識が定着していた。</li> <li>○短答式、記述式の設問は、全国平均を大きく上回り、難しい問題にも粘り強く回答する態度がみられる。</li> <li>●「エネルギーを柱とする領域」(電気、回路、電磁石など)は、全国平均を下回り、課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□エネルギーを柱とする領域では、既習事項を明確にして、学年の学習内容の系統性を意識した授業づくりを行うようにする。</li> <li>□実験などの結果を整理し、結果からどんなことが言えるのかを考察する場面で、実験した目的を振り返り、自分の考えを表現し、話し合いを充実させることで、問題に対する結論を正しく導けるようにする。</li> <li>□身近な生活と関連づけたり、図解やイラストなどの視覚教材や、動画やICT教材などを活用して、エネルギーなど抽象的な概念を理解しやすくしていく。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な学習習慣がついている。</li> <li>○4・5年生は学習計画を自分でたて、集中して勉強している。</li> <li>○学校でICTを多く取り入れている。</li> <li>●5年生は新聞を読む児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□振り返りの時間をしっかりとって次に生かす。</li> <li>□cloudを活用し、めあて・学習過程・振り返りの共有を行う。</li> <li>□ICTを活用し、協働的な学びの実現を図る。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本や新聞を読んでいる人が少ない。</li> <li>○家庭学習の時間が確保できている。</li> <li>○タブレット利用が全国と比べて多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童の読書活動をさらに充実させていく。</li> <li>□家庭学習の習慣のさらなる定着を目指す。</li> <li>□家庭学習の取り組み事例を紹介し、児童が内容を工夫し、必要な力をのばして行けるようにする。</li> <li>□使用のルールなどを徹底しつつ、今後もタブレット利用を充実させ、授業や家庭学習で活用する。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の行事に参加したり、地域の大人と関わったりする割合が、今年度も低い。学年が高くなるにつれて低くなっていく傾向がある。</li> <li>●朝起きづらい児童が、全国平均よりも多い。不登校傾向児との因果関係は定かでないが、6年生は比較的寝る時間・起きる時間が決まっていない傾向がみられる。</li> <li>●学校嫌いについては、全国平均よりも高い数値を示しているが、自己肯定感の高い児童が多く、友だちや先生・家の人から認められているという意識も比較的高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活習慣の取組を継続する。自己決定のできる児童を育成していく。</li> <li>□引き続き、生活科や社会科、総合的な学習などの時間において、地域学習を充実させ、地域への愛着をもてるようにしていく。自由進度学習との因果関係は不明であるが、本や辞書の必要性が薄れたり、他と交わることなく自分だけの世界で様々な事象が完結されていく流れには気を付ける。</li> </ul>

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生:国語の平均正答率は市、全国とともに同程度である。算数は市と同程度、全国を下回っている。                  5年生:国語の平均正答率は市、全国を大きく下回っている。算数は市と同程度、全国を下回っている。                  6年生:国語の平均正答率は県と同程度、全国をやや下回っている。算数は県をやや下回り、全国を大きく下回っている。理科の平均正答率は、県、全国ともにやや上回っている。</p> <p>国語                  ○5年生は、知識・技能に関する問題に課題がある。                  ●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。                  ○6年生は、知識・技能に関する問題は概ね良い。</p> <p>算数                  ●4年生、5年生、6年生とも知識・技能に関する問題に課題がある。                  ●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。</p> <p>理科                  ○知識・技能、思考・判断・表現の問題ともに概ね良い。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを明確にして文章を書いている。</li> <li>○読み取る問題の正答率は80ポイントを上回っており、正答率が高い。</li> <li>●漢字を読む問題の正答率にばらつきがある。</li> <li>●全体的な読み取りはできているが、記述式の問題では正答率が低い。</li> <li>●条件が設定されている問題で正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日頃の授業やテスト返しの時に、問題文をよく読む習慣づけを行う。</li> <li>□話し合い活動の問題で正答率が悪いので、普段から司会をたてた話し合い活動を行う。</li> <li>□読みの問題の正答率にばらつきがあったため、新出漢字の学習時間を効率的に行い、復習の時間を設ける。</li> <li>□原稿用紙に文章を書く習慣を積極的に設ける。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の内容を読み取る力がある。</li> <li>●漢字の書き取りに課題がある。</li> <li>●指定された条件を使って文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□指定された条件に合わせた文章を書く経験を積み重ねる。</li> <li>□日々の生活から、習った漢字を使う習慣をつける。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一問一答形式の問題は概ねできている。</li> <li>○短文構成の文章の読解は概ねできている。</li> <li>●複数の資料を総合的に捉え問題を解くことが難しい。</li> <li>●普段のテストと質問の内容が異なっているため、抽象的な質問に対する誤答が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日常の授業の中で、長い文章を読む機会を増やし、長文に慣れるようにする。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小数のしくみ、円の直径、はかりの目盛りの読み方についての理解ができている。</li> <li>●かけ算の計算や筆算のしくみの理解に課題がある。</li> <li>●答えの求め方を記述で説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□九九の定着を図り、練習問題に繰り返し取り組むことで基礎的な計算力をつける。</li> <li>□普段の授業でも、式や答えの求め方を記述で表現する経験を重ねる。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題に合う図を選んだり、数の大小を比べることができている。</li> <li>○直方体の辺の平行をとらえることができている。</li> <li>●角度器の目盛りを正しく読んだり三角定規を組み合わせた角の大きさを求めたりすることが難しい。</li> <li>●2量の関係を□や○を使った式に表したり、表から関係を見つけ出したりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□角度器の目盛りを左から読むこととらわれているので、長さを測る学習で、右に0を合わせて長さを測る経験を積む。</li> <li>□90°の量感をつかめるように、90°より大きい角度と小さい角度を読み取る経験を積み上げる。</li> <li>□数の関係を見つつける経験や□や○を使った問題提示を低学年の算数から積み上げる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形の問題は正答率が高い。特に作図(コンパス)に関する問題は正答率が高い。</li> <li>○選択問題(計算のみ)の正答率が高い。</li> <li>●記述式(理由や求め方を書く)、読解力を求められる問題に苦手意識がある。</li> <li>●自分の考えをまとめ、書いて伝える問題に苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の考え方を文章で書く活動を授業に取り入れる。</li> <li>□解き方が頭でわかっていても、文章を書くことに苦手意識があるので、説明の仕方を「型」として練習させる。(まず…、次に…など)</li> </ul>
理科	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○顕微鏡の操作方法を問う問題の正答率が平均より15ポイント程度上回っている。</li> <li>●「エネルギー」を柱とする領域の正答率が平均を下回っている問題が多い。</li> <li>●実験の条件を制御した解決方法の問題の正答率が平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□実験をして分かったことを、もう一度自然現象に当てはめる学習サイクルをつくる。</li> <li>□実験計画を立てる際に、条件を一つだけしか変えないことを毎回確認する。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5年生は、本や新聞、辞典などの活字に触れる機会が全国平均と比較すると少ない。辞典を使用して調べものをする時間も少なかった。</li> <li>○6年生は、分からないことやよく知りたい自分で学び方を工夫している。</li> <li>○6年生は、お互いが協力して課題解決する。</li> <li>○6年生は、自分が努力するべきことを決めて取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□調べ学習をする時には、タブレットだけでなく、辞典などを活用できるように指導する。図書室などに新聞を置いて、目にとまるようにする。学習の合間などに読書の時間を設け、本に触れる機会を増やすことを通して、様々な活字の媒体に触れることができるようにする。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年生は、本を読んでいる児童や辞書の活用などの項目が低く、活字離れている児童が多い。</li> <li>●家庭学習の時間が、学年の日安時間を超えていない児童の割合が全国平均よりも高い。</li> <li>●6年生は、読書が好きではない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□図書館司書と連携して、学習単元の関連図書の用意や調べ学習の充実を図っていく。</li> <li>□意図的に読書する時間を確保する。クラスごとの図書館利用時間を有効的に活用する。</li> <li>□家庭学習の手引きにある「10分×学年+10分」の時間の確保ができる課題を用意し、家庭との連携を図って継続的に指導する。</li> <li>□提出された課題のチェックを丁寧に行ったり、自主学習の内容紹介を行ったりすることで、児童の励みになるようにする。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年生と5年生は、テレビを見る時間をきちんと意識しており、睡眠時間の確保ができている。</li> <li>▲4年生は、家庭でお手伝いしている児童が少ない。</li> <li>▲4年生は、地域の行事に参加している児童が少ない。</li> <li>○5年生は、全国平均より睡眠時間が長い。</li> <li>○6年生は、地域の大人との関わりが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□総合的な学習の時間を活用して、地域の人とかかわりを深めていく。</li> <li>□家庭でのお手伝いでは道徳の授業の活用、学校生活の当番活動を通じて、自己有用感を高めていく。</li> </ul>

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生による出雲市の学力調査については、国語は市平均を大きく下回り、算数は下回った結果であった。いずれの教科も全国から比較すると低く、全体的な底上げをする必要性を感じた。
- 5年生による出雲市の学力調査については、国語、算数ともに大きく下回った結果であった。いずれの教科も市や県、全国から比較すると非常に低く、低位層の子どもの多さと上位層の子どもの少なさが目立つ結果であった。全体的な底上げと上位の子どもたちを増やす必要性を感じた。
- 6年生による全国学力調査については、国語、算数ともに市平均から大きく下回った。いずれの教科も市や県、全国から比較すると低く、全体的な底上げと上位の子どもたちを増やす必要性を感じた。
- いずれの学年の意識調査でも学習への関心意欲が低く、学校として根本的な問題を解決していかなければならない困難さを感じている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を読むこと、説明文の内容を読み取ることは、全国平均と同程度である。 ●話し合いの内容をまとめて書くこと。無回答が多い。 ●漢字の送り仮名を書くこと。	□文章を読むことに慣れるように、音読の継続や様々な本を読む時間を意図的に設ける。 □文章を書く力をつけるために、家庭学習の出し方を工夫する。 □漢字の定着を図るため、毎月の書取会を行う。文章の中で漢字を適切に書かせる活動を行う。
	5年	○話し合いの内容を聞き取ったり、物語文の内容を読み取ったりすること。 ●漢字の読み書き、言葉のはたらきの理解、説明文の読解、要約すること。 ●自分の考えを条件に合わせて表現すること。	□書取会を定期的に行い、漢字練習を繰り返し行う。 □要約の練習を継続する。 □思いや考えを書いて表現する機会を増やし、書く力を育てる。
	6年	○我が国の言語文化に関する事項は、平均と同程度である。 ○基礎的な漢字を書くこと。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	□書くことに抵抗のある児童が多いので、タブレットを使用して書く活動を取り入れる。 □書いたことを評価する。 □聞いたことをアウトプットし、活かせる活動を取り入れる。
算数	4年	○たし算、ひき算の計算は、全国平均を上回った。 ○時刻と時間の理解や、グラフを読み取ることができる。 ●かけ算の文章問題を読み取ること。 ●長さ・重さの問題を読み取って記述すること。	□問題の題意をつかめるように、キーワードに線を引いたり、図に表したりする活動を増やす。 □立式した理由を書いたり話したりする活動を計画的に取り入れていく。
	5年	○数直線上に示された分数の読み取り方を理解している。 ○図をもとにしてかけ算の立式をすることができる。 ●基本的な計算。特にわり算の筆算。 ●大きな数、分度器の読み方、面積の求め方、計算のきまり。 ●グラフの読み取りや図形の性質の理解。	□基本的な計算力(四則計算)をつけるために、毎日短時間でも計算練習をする。 □グラフの読み取りを、他教科でも丁寧に練習する。 □授業の中で、記述することや説明することの時間を増やす。
	6年	○棒グラフから、項目間の関係を読み取ること、異分母の分数の加法の計算をすること。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。 ●簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと。 ●目的に応じてグラフを選択し、その理由を記述すること。	□他教科と連動させながら学習を進め、理解を深める。 □グラフの読み取りの仕方を繰り返し練習する。 □文章問題の学習で何を問われているのか、どうやって解くべきなのかを考えさせる経験を積ませる。
理科	6年	○水の蒸発は温度によって水の状態が変化することを理解している。 ●実験結果を基に結論を導いた理由を表現すること。 ●発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。	□言葉で表現する機会を設ける。 □知識と経験を繋げる活動を増やす。 □実験や体験活動を取り入れて理解に繋げる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○ICT機器を活用した主体的・個別的な学習が増えた。 ○先生たちからも認められていると感じている児童の割合が高い。 ●語彙量が少なく、学習に図書館を利用している割合が少ない。 ●分からないことを教師に質問する児童が少ない。 ●自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する割合が少ない。 ●返された答案の見直しや授業の復習をしている割合が少ない。	□図書館を活用したり、辞書を使用したりする機会を設ける。 □授業の中で質問できる時間を確保するとともに、個別の指導を適宜行う。 □答案の見直しをする時間を設定したり、家庭学習の出し方を検討したりする。 □ICT機器の活用をさらに進め、家庭への持ち帰りを進める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をする児童が多い。 ●本や新聞などの活字に触れる機会が少なく、スマホやゲーム等のメディア接触の時間が多い。 ●読書や自学に取り組む児童が少なく、学校から与えられた課題だけに取り組む児童が多い。	□定期的に図書館を利用し、読書の習慣づけを進める。 □元気ハツラツ週間等に合わせ、メディア利用の指導を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○朝食や夕食をきちんと食べている児童が多い。 ●家の手伝いをしていない児童が少ない。 ●地域の行事に参加していないと答えた児童の割合が多い。	□総合的な学習の時間を通して、地域への愛着を深める。 □家庭科の授業に合わせて、家庭でも何か役割を担うことができるようにする。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生の国語、算数ともに、市の平均正答率と同程度であったが、全国平均正答率より下回った。  
 ○5年生の国語は、市の平均正答率より上回ったが、全国平均正答率とは差が見られなかった。算数は市の平均正答率より大きく上回ったが、全国平均正答率とは同程度であった。  
 ○6年生の国語、算数ともに、県の平均正答率よりやや上回ったが、全国平均正答率とは差が見られなかった。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きや文章の内容理解を問われる問題は正答率が高い。 ●ローマ字、国語辞典に載っている言葉の文字理解を問われる問題の正答率が低い。 ●自分の考えを書くことに関する正答率が4割程度。	□ローマ字に関しては、タブレットのタイピング練習で読み書きの向上を図る。 □図書館司書と連携し、読書の質を上げ、文字に触れたり、言葉の意味を理解したりする活動を促す。理解した言葉を使用できるように日々の話し合い活動を活発に行う。 □日記などで条件作文等、「書く」ことに多く触れさせ抵抗を少なくする。
	5年	○連用修飾語についての正答率が約5割。 ○ことわざについての正答率が約8割。 ●相手や目的を意識して伝えたいことを書くこと、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考えて書くことに関する正答率が4割。無回答の児童が2割程度いる。	□情報を整理して書くことや、相手意識をもって書くことの積み重ねをしていく。授業後の振り返りや、委員会活動や各行事でのお知らせ文作りなど、機会を多く設ける。 □自分の考えを整理して相手に伝える習慣づくりに取り組む。ペア対話や全体対話の充実を図る。 □課題をもって情報収集・整理して伝えるという、学校図書館活用教育の充実。
	6年	○基本的な漢字の読み書き、簡単な文章を書く力が身につけている。 ●問題が複合的になると正答率が下がる。 ●文章の中から答えを見つけることに慣れすぎていて、問題全体を見て答えを判断できない。 ●語彙を正しく習得できていない。	□新聞記事や資料付きの文章などを活用し、読むことで比べたり考えを深めたりするような練習をする。
算数	4年	○演算に関する言葉を理解して立式できる。 ●1分=60秒を理解していない。 ●□を使った文章問題を表した図の構造を捉えられない。	□時計を意識するように声掛けをして生活するようにする。 □文章問題を読んで絵や図で表すようにする。それから線分図、数直線につなげていく。
	5年	○基本的な計算は理解できている。 ○記述問題に根気強く取り組んでいる。 ●図形・順序立てて考えることができていない。作図、説明する場面を設ける。	□特に算数で説明したり、説明をするために図をかくたりする機会をもつ。 □パズルで遊ばせたり、コンパスでの模様づくりをしたり、日常的に図形に触れさせる。
	6年	○基本的な知識・技能を問われる問題については、正答率が高い。 ●数量が与えられておらず、マス目を使って数量を調べて問題に活用することに課題がある。	□自分の言葉で説明しあう活動を取り入れたり、図に表したりする活動を取り入れる。 □数量の意味を捉えたり、その数量がどの単位なのか、単位に着目させることを意識したりできるように板書や掲示物を工夫する。
理科	6年	○知識・技能を問われる問題や「生命」を柱とする領域の問題の正答率が高かった。 ●思考力・判断力が必要となる問題や「粒子」を柱とする問題の正答率が低かった。	□実際に観察や実験をする経験を大事にするのと同時に、実験結果を言語化する時間を意図的に確保する。 □学習した内容が生活の中でどのように使われているか・つながっているかを意識できるように単元のまとめを工夫する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話したり、相手の話をしっかり聞き取っている児童が全国平均を上回った。(4, 5年生) ○「学級会」に関する質問項目への肯定的な回答が平均を上回った。(4, 5, 6年生) ●「国語、算数の授業でわからないことがあれば先生に質問している」について肯定的な回答をした児童が全国平均を下回った。(4, 5年生)	□授業中に質問できる時間を設けたり、ペア・トリオ学習から全体に広げる学習展開を行い、児童の質問を取り上げやすくする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●平日のメディア時間が2時間以上の児童が4割を超え、市の平均を上回った。(4年生) ●国語、算数ともに「予習・復習をするか」について肯定的な回答をした児童が全国平均を下回った。(4, 5年生) ○「家庭学習にパソコン(インターネットを含む)を活用している」について肯定的な回答をした児童が全国平均を上回った。	□四絡読書の日、ダウンメディア週間等を利用し、家庭との連携を図りながら主体的に学習に向かう態度を養う。 □タブレットを活用し、主体的に家庭学習に取り組むことができるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」の肯定的な回答が全国平均を下回った。 ○地域の行事に参加している児童が全国平均を上回った。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」について肯定的な回答が全国平均と同程度であった。	□生活科や総合的な学習で地域の「人・もの・こと」を活用した実践を継続的にを行い、地域との連携を更に高める。また、学習の中で地域の方への感謝や地域の一員である自覚を持たせる。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生の国語に関しては、全国または市の平均正答率を上回っている。情報の扱い方に関する事項に課題がある。算数に関しては、全国または市の平均正答率を上回っている。表と棒グラフに関する事項に課題がある。  
 ○5年生の国語に関しては、全国または市の平均正答率を下回っている。我が国の言語文化に関する事項に課題がある。算数に関しては、全国平均正答率を下回り、市の平均正答率と同程度である。図形、変化と関係に関する事項に課題がある。  
 ○6年生の国語に関しては、全国平均正答率を下回っている。情報の扱い方に関する事項に課題がある。算数に関しては、全国または県の平均正答率と同程度である。変化と関係に関する事項に課題がある。理科に関しては、全国または県の平均正答率を上回っている。条件を制御して、解決の方法を考えると課題がある。  
 ○定期的な生活リズムコントロール週間の取り組み等により、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全国の平均正答率をやや上回りかつ、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●言葉の学習に関する事項、話し合いの場面で考えをまとめることに課題がある。	□日常的に話したり書いたりする中で、主述の関係を押さえながら表現できるようにする。 □国語辞典を積極的に活用し、正しい引き方ができるようにする。 □話し合い活動を意図的に設け、意見をよりよくまとめる経験を積み重ねていく。
	5年	○情報の使い方に関する事項、物語の読み取り問題については、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●説明文の内容を読み取る問題、文章の要約については、市の平均正答率を大きく下回っている。	□授業の中で、自分の伝えたいことを明確にして文章で書きあらわす作文指導に継続して取り組む。 □要点はどこか考えながら文章を読んだり、話を聞いたりする経験を積み重ねていく。
	6年	○漢字の書き取り、条件に当てはめながら自分の考えを書くことについては、全国平均正答率を大きく上回った。 ●相手の発言に当てはまる内容を選択したり、図から情報の関係を読み取ったりする問題は、全国平均正答率を大きく下回った。	□聞く視点を提示し、相手の発言の意図や考えを考察しながら聞き取るように促す。 □文章の読み取りを図式的に行う活動を取り入れ、語句と語句との関係やつながりを構造的に理解できるようにする。
算数	4年	○全国または市の平均正答率を大きく上回っている。 ●資料の読み取りと活用問題の正答率が低かった。	□グラフの数値の読み取りや、問題文の理解、他の数値との比較が正確にできるような学習活動を行う。
	5年	○市の平均正答率と同程度である。 ●「小数」、「概数」と「変わり方調べ」の分野に関して正答率が低い。	□問題内容を読み取り、二重数直線や図をもとにしてから立式する活動に継続して取り組む。 □新単元に入る前に既習事項の復習の時間を取り、これまで学習した数の構成や計算のきまりについて確認してから新しい学習内容に取り組む活動を継続しておこなう。
	6年	○全国平均正答率とほぼ同等である。 ●変化と関係の領域が全国平均より大きく下回った。	□変化を捉えるために、関係を図や表などに整理する活動を取り入れる。 □相手により伝わりやすくするために、言葉だけでなく図や表なども用いるようにする。
理科	6年	○花のつくりや受粉の仕組み、電磁石について、全国平均正答率を大きく上回った。 ●ヘチマの実験において、条件を制御しながら実験方法を考える問題が、全国平均より大きく下回った。	□実験方法を考える際、変える条件、変えない条件を明確にし、板書に残すなどして意識できるようにする。 □事象や実験結果などから、新たな問いを生み出し、言葉で表現する活動を重点的に行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○自分の力をさらに伸ばしたいと考えている児童が多い。 ○タブレットを用いて自分の考えを文書作成で表したり、知りたい情報を収集したりすることができると感じている児童が多い。 ●タブレット学習に「楽しさ」は感じているものの、相手に伝える力や、分からないことを調べたり、調べたことをまとめたりする力が身に付いていると実感している児童が少ない。	□内容理解を図ることができるよう、話の要点を確認したり、自分の言葉や文章、図などで表現したりする学習活動をしつかり行う。 □学年や教科に応じてICT機器を活用し、図書館利用と併用しながら調べたり、まとめたことを発表したりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家の人から言われなくても進んで勉強している、と答えた児童が多い。 ●予習・復習のために時間をとっている児童や、本や新聞を読んでいる児童の割合が少ない。	□年に3回の「生活リズムコントロール週間」に併せて、「家庭学習頑張り週間」や「ファミリー読書(家読)」を行い、家庭学習の見直しを図ったり、読書の機会を増やしたりする。 □学年毎におすすめ20冊の必読書を設定し、学年に応じた内容の本に触れる機会をもつ。 □自主学習ノートはコメントや評価を行う。また、校内掲示や表彰をすることで家庭学習への意欲付けを行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。 ○学校や自分の住んでいる地域のことが好きと答えている児童が多い。 ●地域が好きと答えた児童は多いが、実際に地域の行事に参加している児童は少ない。	□地域行事への案内の周知や参加を促す。 □総合的な学習や社会科において、コミュニティセンターと連携しながら地域と触れ合う活動の工夫を行う。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 平均正答率の比較
- 4年生の国語は市と同程度だが、全国より大きく下回る。算数は市と同程度で全国より下回る。
- 5年生の国語は市よりやや下回り、全国より大きく下回る。算数は、市、全国ともに大きく下回る。
- 6年生の国語は県、全国ともに同程度、算数は県より下回り、全国より大きく下回る。理科は、県、全国ともに同程度。
- 問題を読み取り、大まかな内容を理解することが昨年度に比べ改善され、文章の読み取りの正答率が高い傾向にある。
- 規則正しい生活をしている児童は正答率が高い。
- 記述問題に課題があり、条件に合わせて文章を書いたり、自分の伝えたいことを根拠に基づいて表す力が低い。
- 算数の既習事項の定着に課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書き共に全国平均正答率を上回る。 ○説明文で叙述をもとに文章や段落の内容をとらえることは、全国平均正答率を上回る。 ●条件に合わせて文章を書くことが全国平均を下回る。 ●司会の役割を果たしながら話し合ったり、考えをまとめたりすることは、全国平均を大きく下回る。	□内容ごとに段落を分けて書く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考えるなど、様々な条件を指導者が設定し、書く経験を積めるようにする。 □話し合い活動において、司会の役割を明確にし、共通点や相違点に着目し、途中や終わりに内容を整理したり、まとめたりする発言をさせるようにする。
	5年	○友達との話し合いで、相手の意見を聞き、正しく理解することができる。 ○書く力がついてきている。 ●修飾語と述語の違いが理解できていない。 ●自分の伝えたいことを根拠に基づいて表す力が低い。	□定期的に文法の問題を復習する機会を設定する。「理由」「具体例」とは何かなど一つ一つの言葉にこだわり、問い返しなどでほり下げて身につかせていく。 □継続的に自分の言葉で文章を書き表す機会をつくる。
	6年	○チラシの問題で、総合のまとめを今までいろいろやった経験が生きていると思われる。 ●記述式は正答率が低い。複数の条件があるときに全てを満たして記述することができない。	□普段の学習の中で、条件をつけて作文を書く経験を積み上げる。 □長い文章を読んで内容を理解する力をつける。 □物語だけでなく、新聞なども読む。新聞ワークシートを利用して読み取る練習をする。
算数	4年	○小数や分数の基本的な計算ができています。 ●波動的繰り下がりのある引き算の筆算、十進位取りの記載方法が全国平均を大きく下回っている。十進法の正しい理解に課題があることがうかがえる。 ●言葉や式を使って説明する問題に関して全国平均を大きく下回っていることから、自分の考えを説明する力に課題がある。	□言葉や式を使って、理由を説明することを普段の授業でこまめに行っていく必要がある。 □波動的繰り下がりのある引き算の筆算について、関連する単元の際に復習を行う。
	5年	○面積の問題は市、全国より正答率が高い。 ●わり算、角の大きさ、変わり方調べ、折れ線グラフと表の問題は特に低く、定着に課題がある。	□ペア・グループを活用して教え合いや説明する機会を増やす。 □授業の中で自力解決の時間を取り、言葉と式で表す練習をする。
	6年	○二次元表、角の大きさを表す要素について理解している。 ●正答は分かるが、資料を選んで、適切な言葉で説明することができない。 ●公式が分かっているが、どこに着目したら面積が求められるのか説明できなかつたり、通分や分数の概念、図形の性質が理解できていない。	□操作的な活動を通して、図形の公式の意味が理解できるようにする。また、抽象的概念は全員の理解を確認しながら授業を展開していく。 □学習したことが生活でどのように生かされているか、学習することのよさを伝えるようにする。
理科	6年	○ヘチマのつくりや生命など実感をもって学習できたことは定着が見られる。 ●直列と並列が理解できていない。 ●普通のテストと様子が異なり、上手に時間配分ができなかった可能性がある。	□自分の考えを言葉にしてまとめる活動を継続的に取り入れる。 □実験の予想などに根拠をもつことができるように、具体的な事象を取り上げながら想起させる。 □理科の問題集(ドリルパーク)に繰り返し取り組むことで、知識の定着を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学習態度は真面目で、人の話を聞こうとする児童が多い。 ●条件に合わせて書くことに課題がある。 ●答えは分かるが、解き方を説明をしたり、書いたりすることに苦しさを感じている児童が多い。	□主語、述語、修飾語など文を構成している要素を系統的、連続的に指導していく。 □全教科において、相手や目的を意識して伝える、理由や根拠を明確にするなど条件を示して書く活動を設定する。 □話し合う時は、司会、記録、発表者の役割を明確にして、話し合い活動を行わせる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○自分で計画を立てて、勉強できている児童が多い。 ●学年が上がるにつれ、スマホ視聴時間が長くなり、就寝時間が遅い。 ●家庭学習の時間が、平日、休日ともに全国平均より短い。	□学力パワーアップ週間中は、15分以上の読書時間を目標とし、毎日カードを提出させて、実態に応じた声かけをしていく。 □上学年は、該当学年の習熟と全学年の復習がバランスよくできるよう、毎月自学メニューを示し、締め切り日を設定して提出させる。自学ノートコンクールを行ったり、頑張りを認めたりして、家庭学習に励みを持たせる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○人の役に立ちたいとか人が困っている時に助けをあげたいと考えている児童の割合が高い。 ○地域のよさを実感できている。 ●本や新聞など活字にふれる機会が少ない。 ●自己有用感や自己肯定感が低い児童が少なくない。	□月・木の全校朝読書の時間を確保したり、小学生新聞掲示や新聞ワークシートを継続することにより、活字に触れる機会を設ける。 □教師から積極的に地域の方や子どもにあいさつをしたり、子どもたちの伸びを認めたりする。時には親に伝えて両面から認め、自己肯定感を高めていく。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神西小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 6年生においては、国語・算数・理科ともに全国平均を大きく上回っている。
- 5年生においては、国語・算数ともに全国平均を大きく下回っている。
- 4年生においては、国語は全国平均を大きく下回っているが、算数では全国平均と差が見られない。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を開き取ること、説明文の内容を読み取ることが、全国平均や目標値より大きく上回っている。 ●漢字を正しく書くことや漢字のへんやつくりへの理解に課題がある。 ●文章の構成を考えたり、自分の考えを明確にして書いたりすることの正答率が低く、無回答もある。	□家庭学習や朝の活動でドリルや端末アプリを活用し、学習する機会を設ける。 □国語辞典を活用して意味調べをする機会を増やす。 □書くときには、条件(字数、段落、理由を明らかにして考えを書くなど)を設定して書かせる。 □進んで書きたくなるようなテーマを設定し、文章を書く機会を設ける。
	5年	●全国平均や目標値を大きく下回っている。 ●「書くこと」では、条件に合わせて書く問題で無回答が多い。 ●言葉の学習の区分では、連体修飾語、ことわざ、漢字辞典の使い方などで誤答が多い。	□「書くこと」への抵抗感を減らすために、書きだしを提示したり書き方のパターンを示したりして書く機会を意図的に設定する。 □語彙を増やすために、国語辞典を常時活用する習慣づけを行う。日々の学習で文章を読む機会を増やす。 □ことわざや慣用句などを、学校生活の様々な場面で解説入りで話をしたり、身近な例と結び付けて考えたりする機会をつくる。
	6年	○どの区分においても全国平均を大きく上回っており、また全体的に無回答が少ない。 ●記述式の問題が全国と比べ上回っているが、他の区分と比べると正答率が6割で低い。 ●全国平均と比べ新聞を読んだり、読書をしたりするなど文字に触れる機会が少ない。	□文脈から意味を推測したり、内容の要約を書いたりする機会を増やす。 □資料を活用して、自分の考えを明確にし、友達と伝え合う機会を増やす。 □国語の学習内容に関連した図書を学級文庫として取り入れる。 □PCを使って自分の考えを伝えたり他者の考えと比較したりする機会を増やす。
算数	4年	○「大きい数」「小数」は、目標値を大きく上回っている。 ○円と球や三角形の図形において、目標値を上回っている。 ●わり算(余りあり)では、文章問題の答え方や余りの処理の仕方で正答率が低く、無回答がある。 ●わり算(余りなし)や繰り下がりのあるひき算の正答率が目標値より大きく下回っている。	□計算会や朝の活動で基本的な計算問題、ドリル学習に取り組む。 □文章問題から「図・式・言葉」で考えるなどして問題の理解が深まるようにする。 □理由や根拠を明らかにして考えを説明できるように、対話や交流の場を意図的に設定する。
	5年	●すべて平均を下回っている。特に「変化と関係」は約20ポイント下回っている。 ●「面積」は、全国平均より大きく下回っている。 ●「小数の割り算」「変わり方調べ」「角の大きさ」の無回答や誤答が多い。	□割り算や角の大きさを中心とした反復学習を行う。 □数の相対的な大きさに触れる機会を意図的に増やす。 □計算速度の向上に向けた課題や自主学習を奨励する。 □普段の授業から、図や数直線などを用いて考えることを促す。
	6年	○どの区分も、全国平均より上回っており、特に図形領域の正答率が高い。 ●割合、小数や分数の計算問題の正答率が低い。 ●目的に応じて適切なグラフを選択し理由を記述する問題の正答率が低い。	□割合、小数や分数を使った問題を中心とした反復学習を行う。また、毎月の計算会を活用し、既習の基礎計算問題の復習を定期的に行う。 □計算速度の向上に向けた課題や自主学習の奨励。 □資料やデータを考察し、自分の考えとその理由を伝え合う場を意図的に設定する。
理科	6年	○理科の勉強が好き、将来に役に立つと肯定的に回答している割合が全国平均と比べ高い。 ●物のあたまり方や水の行方の正答率が低い。	□自ら問いを作り、解決していく学習の流れで授業を構成する。 □授業の始めや朝の学習活動で端末を活用し、復習する機会を設ける。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業ではしっかりと話を聞いている」「授業ではきちんとノートをとっている」と回答した児童が、全国平均より多い、あるいは同程度。 ●「授業で分からないことがあれば、先生に質問している」と回答した児童が全国平均より少ない。	□児童の実態やつまずきを把握し、個別学習・協働学習を効果的に取り入れる。 □児童のつぶやきを学習課題とし、授業を進めていく。 □学び方やモデルを提示することで、児童が自らの学びを選択できるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「宿題は、きちんとしている」と回答した児童が、全国平均より多い。 ●言葉を使ったパズルや計算・図形を使ったパズルで遊ぶことがあると回答した児童が全国平均より少ない。 ●予習・復習をしていると回答した児童が全体の5割から6割と低い。	□自分の課題に合った自主学習を奨励する。 □基礎的な力をつけるための学習や意欲を付けるための学習をバランスよく提示する。 □児童の学びや授業の様子を学級通信で発信し、家庭と連携する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校や家の人と決めた「きまりは守っている」の肯定的な回答が約9割。 ●「学校での出来事を家の人に話している」と回答した児童が全国平均より少ない。 ●全国平均と比べ新聞を読んだり、読書をしたりするなど文字に触れる機会が少ない。	□学校司書と協力して、学級文庫を定期的に入れ替え、読書の推進を図る。 □宿題を出さない「ふれあいの日」の実態調査を行い、より良い活用法を提案する。 □地域の人材・資源を積極的に活用した教育の充実を図る。 □地域の外部講師との連携を図る。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>(国語)                  全国の平均正答率と比べて4年生・6年生は大きく下回り、5年生はやや下回る。                  ○5年生は話す・聞くことの正答率が全国を大きく上回り、6年生は情報の扱い方に関する事項が同等である。                  ●4年生・5年生・6年生ともに「書くこと」の正答率が全国を大きく下回り、解答の形式では記述式の正答率が大きく下回る。</p> <p>(算数)                  全国の平均正答率と比べて4年生はやや下回り、5年生・6年生は、同程度である。                  ○6年生は、グラフから変化を読み取る変化とその関係の領域が大きく上回り、5年生はデータの活用が大きく上回る。                  ●記述式の正答率が4年生・5年生・6年生ともに全国を下回る。</p> <p>(理科)                  全国の平均正答率と比べて同程度である。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を書くことについては、全国の正答率とほぼ同等である。 ●書くことについては、無回答も多く、指示された条件で書くことに課題がある。 ●読むことについては、時間内に問題文を読み取ることに課題がある。	<input type="checkbox"/> 図書館司書との連携を図り、個別での活動の充実に生かす。 <input type="checkbox"/> 振り返りで大事な言葉を入れて書いたり、～についてまとめたりするなど条件をつけた振り返りをする。
	5年	○物語文を読んで、内容を理解して答えている。 ●書くことについて、無回答が多く、条件を与えられて書くことに課題がある。 ●説明文では、段落相互の関係の読み取りに課題がある。	<input type="checkbox"/> 作文など書くことを意識して取り組み、原稿用紙の使い方などの定着を図る。 <input type="checkbox"/> 思考ツールを活用して、文章の組み立てを考えたり、読み取ったりすることに慣れる。
	6年	○情報と情報の関係の仕方を問う情報の扱い方に関する事項については、全国の正答率と同等である。 ●目的に応じて書いたり、読み取ったりすることに課題がある。 ●正しく漢字を書くことに課題がある。	<input type="checkbox"/> 自分の学習方法に合った漢字練習に取り組む。 <input type="checkbox"/> 思考ツールを活用し、自分の考えを整理して書く習慣を身につける。
算数	4年	○データ活用や図形については、全国の正答率とほぼ同等である。 ●文章題を図に表したり、図から立式したりすることに課題がある。	<input type="checkbox"/> 反復練習だけでなく、活用も取り入れていく。 <input type="checkbox"/> ペアや小グループで自分の考えを説明する場を設ける。
	5年	○データの活用は全国を大きく上回り、基礎の学習は同等であり、基礎的な計算技能が身につけている。 ●三角定規の角度など角と平行の内容に課題がある。	<input type="checkbox"/> タブレットドリルなどを活用し、基礎だけでなく活用にも取り組んでいく。 <input type="checkbox"/> 考えを説明する時には、図や根拠を表す言葉を算数用語を使って行うようにする。
	6年	○基本的な計算技能が身につけている。 ○解答の仕方では、選択式での正答率が全国を大きく上回り、問題を的確に捉えている。 ●測定では、目盛りを正しく読むことに課題がある。	<input type="checkbox"/> タブレットドリルなどを活用し、自分の課題にあった内容に取り組み、定着を図る。 <input type="checkbox"/> 立式の理由ややり方の説明をペアや全体で話す場を設ける。
理科	6年	○基礎的な知識・技能は身につけている。 ●問題形式では、記述式の問題への正答率が低く、自分の言葉でまとめることに課題がある。	<input type="checkbox"/> 実験などのまとめでは、自分の言葉でまとめ、伝え合う場を設ける。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学習にインターネットやタブレットを使って学習している割合が高い。 ○きちんとノートを取っている割合が高い。 ●分からないことがあっても、辞書を引いて調べ児童の割合が低い。 ●算数では、図に置き換えて考えたり、いろいろなやり方を考えようとする割合が低い。	<input type="checkbox"/> 全校で読書の時間をする時間を設け、本に触れる時間を確保する。 <input type="checkbox"/> 「平田小授業モデル5」(問題解決を楽しめる子ども作りのためのモデル)を実践し、自分の考えをもてる、表現できるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○筆記用具などの準備を整えて、集中して学習している児童の割合が高い。 ○家の人から言われなくても進んで勉強している割合が高い。 ●本や新聞を読む児童の割合が低い。 ●メディアに接する時間が長く、家庭学習の時間が短い。	<input type="checkbox"/> 内容・目的など学年に応じた自学に取り組む。 <input type="checkbox"/> 「さわやか週間」の取組みを通して、メディアとの付き合い方や時間の使い方を考え、実践できるよう指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○体育の授業のほかにも運動をしている児童の割合が高い。 ○朝食をきちんと食べ、夕食は家の人と一緒に食べている児童の割合が高い。 ●地域の行事に参加している、地域をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合が低い。 ●ニュースを見ている割合が低い。	<input type="checkbox"/> 生活科、社会科、総合的な学習の時間、クラブ活動などを中心に、地域の人・ものを活用し、自分事として考える場面を設ける。 <input type="checkbox"/> 手伝いや親子遊びなどを紹介し、家族でコミュニケーションをとるきっかけ作りをする。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立瀬分小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生の国語は、市平均正答率を下回っており、全国平均正答率を大きく下回っている。算数は、全国平均正答率、市平均正答率と同程度である。5年生の国語は、市平均正答率、全国平均正答率と同程度である。算数は、市平均正答率をやや上回っており、全国平均正答率と同程度である。6年生の国語は、全国・市ともに平均正答率を上回っており、算数は、全国・市の平均正答率を大きく下回っている。理科は、全国・市ともに平均正答率と同程度である。

- 国語 … 文章の読解、情報の活用や書くことに課題がある。
- 算数 … 文章をよく読んで題意を理解したり、文章や図、表やグラフなどの情報から必要な数値を読み取ったりして問題を解くことに課題がある。
- 理科 … 実験の結果の考察について、根拠を明らかにして自分の考えを書くことに課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きや説明文の読解力がついてきている。</li> <li>●条件に合った文章を書くことに課題がある。</li> <li>●叙述を基に人物の様子や気持ちを読み取ることに課題がある。</li> <li>●国語辞典の使い方に慣れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□内容を工夫した条件作文を継続的にを行い、短時間で適切な文章を書く力をつけていく。</li> <li>□初めて読む物語文でも場面の様子や人物の気持ちを読み取るように、宿題や朝活動などで、いろいろな文章を読む。</li> <li>□国語辞典を使って調べることを継続的に行う。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活に結び付いた事柄について自分の伝えたいことを文章にする力がついてきている。</li> <li>●説明文を読み取り、キーワードを見つけて要約することに課題がある。</li> <li>●複数の情報を読み取って、伝えたいことに必要なことを選び、文章にまとめることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□初めて読む読解問題でも正確に読み取るように、宿題や朝活動などで、いろいろな文章を読み、要点をつかむ力をつけていく。</li> <li>□各教科や総合の時間にも情報を読み取ってまとめる機会を増やしていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きや自分の考えを明確にして文章を書く力がついてきている。</li> <li>●情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題がある。</li> <li>●段落相互の関係や図を取り入れる効果など文章の構成の工夫を読み取ることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□情報を活用して解く問題に継続して取り組み、問題の解き方に慣れるようにする。</li> <li>□発展的な問題を取り上げて、読解力や言葉の力をのばしていく。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小数の計算や□を使った式、線分図、測定領域等の問題を解く力がついてきている。</li> <li>●グラフの読み取りや円と球の知識理解に課題がある。</li> <li>●問題をよく読んで必要な情報を選んだり、理由を記述したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学習内容が定着するように、朝学習の時間や家庭学習で既習単元の問題に繰り返し取り組む。</li> <li>□問題のイメージをつかむために、普段から図や絵をかくて考える習慣をつける。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形領域や小数の計算、表とグラフの問題については解く力がついてきている。</li> <li>●帯分数の計算や角の理解に課題がある。</li> <li>●情報量の多い問題の題意を理解したり、理由を記述したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□まだ十分定着していない学習内容については、カードの操作を取り入れた問題やパズル的な要素のある問題を家庭学習にも出題するなどして、楽しみながら理解できるようにする。</li> <li>□問題のイメージをつかむために、普段から図や絵をかくて考える習慣をつける。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形領域の力がついてきている。</li> <li>●数直線の見方、変わり方や割合の意味理解に課題がある。</li> <li>●小数の計算の仕方の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□いろいろな形の数直線に慣れ、見方を養う。</li> <li>□小数の計算の仕方について再確認し、家庭学習等で反復練習をする。</li> <li>□問題文をしっかり読み込み、必要な情報を吟味して立式したり、答えを確かめたりする習慣をつける。</li> </ul>
理科	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能はどの領域においても身に付けているといえる。</li> <li>●実験などの結果をもとに、いろいろな視点で分析し、差異や共通点をもとに自分の考えを書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□実験の結果の考察では、実験結果の数値等の根拠を明らかにして、理科の用語を使って自分の言葉で文章化する。</li> <li>□複数の資料を関連づけて読み取るような問題に慣れるように、継続して取り組む。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分によいところがある」と感じている児童が多い。</li> <li>●授業の中で自分の考えを上げたり、深めたりできていると感じている児童が多い。</li> <li>●授業の予習、復習をしている児童の割合が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ふりかえりをフィードバックして、児童の気付きを実感させるような授業をする。</li> <li>□既習事項や前時までの学習と本時の学習がどうつながっているかを意識できる環境(家庭学習との連携)を工夫する。</li> <li>□児童が達成感をもてるようにスモールステップで学習を組み立てる。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習では、目標時間に満たない児童が多い。</li> <li>●新聞・本を読んだり、勉強に辞書・参考書・問題集を使ったりする児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭学習で授業につながるような調べ学習などを取り入れる。</li> <li>□家庭学習について、学年で決められた目安の時間を意識するような手立てを考える。</li> <li>□タブレットの持ち帰りを進め、家庭学習でも活用できるよう工夫する。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝食を摂取している児童や、決まりを守ったり、あいさつをしたりすることができていると感じている児童が多い。</li> <li>●メディアの利用時間が長い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□基本的な生活習慣や家庭での学習時間の定着を図る取組(さわやかてっぴんウィーク)時に、学びを意識できる家庭での取組の呼びかけをする。</li> <li>□メディアとの付き合い方について、児童や保護者を対象とした研修の機会を設けたり、児童に指導したりする。</li> </ul>

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立旅伏小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

第4学年 市学力・学習状況調査  
 ○国語は、全国の平均正答率と同程度で、市の平均正答率をやや上回った。  
 ●算数は、市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率をやや下回った。  
 第5学年 市学力・学習状況調査  
 ○国語は、全国の平均正答率と同程度で、市の平均正答率を上回った。  
 ○算数は、全国の平均正答率を上回り、市の平均正答率を大きく上回った。  
 第6学年 全国学力・学習状況調査  
 ○国語、算数は、全国の平均正答率を上回り、県の平均正答率を大きく上回った。  
 ○理科は、全国・市の平均正答率をどちらも大きく上回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全体的には、市の平均正答率を上回り、全国の平均正答率と同程度であった。 ○「読むこと」については、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●「書くこと」については、市・全国の平均を大きく下回った。自分の考えの根拠を明確にして文章で表現することに課題がある。	□時間、字数、段落等の条件付けをして書くことの経験を積むために、朝活動などの時間に短作文などに取り組む。 □授業では、個人思考の時間を確保し、複数の児童の考えを選択肢を示すなどの教材に対する自分の考えをもつことができるようにする。
	5年	○全体的には、市の平均正答率を上回り、全国の平均正答率と同程度であった。 ○話し手の伝えたいことの内容を捉えて、話し合いの内容を聞き取ることができている。 ●自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして文章を書くことに課題が見られる。	□時間、字数、段落、事例を取り入れる等の条件付けをして書くことの経験を積むために、朝活動などの時間に短作文などに取り組む。 □読書の時間を確保し、語彙を増やすとともに、初見文や長文の読解に慣れる。
	6年	○全体的には全国の平均正答率を上回っている。 ○資料を根拠に自分の考えを書くこと。 ●語彙力の不足。 ●要約や要旨をつかむことや、整理し、図式化すること。 ●組み立てて作文を書くこと。 ●題意の読み取り、複数の資料を関連付けること。	□文章や聞き取ったことの要点をまとめて整理し、図式化するなどの経験を積む。 □文章の中からキーワードを見つけ、組み立てて話したり書いたりする力をつける。 □語彙力を高めるために、辞書を引くことを習慣づけたり、新聞の活用や読書の幅を広げる働きかけをしする。
算数	4年	○基礎的な問題の正答率については全国と同程度である。 ○「図形」については、市・全国の平均正答率を上回った。 ●「測定」「データの活用」については、市・全国の平均を大きく下回る。 ●文章の題意を把握したり、自分の考えを言葉や数、式で表現することに課題がある。	□様々な活用問題を解き、自分の考えを言葉や数、式を使って表現する経験を積ませる。 □量感を培っていきけるように、経験・体験を伴った学習活動をする。
	5年	○全体的に市・全国の平均正答率を上回り、基礎的な力が身についている。 ○「数と計算」については、市・全国の平均正答率を大きく上回る。 ●問題の意味を正しく捉え、式に表したり、式に表された考えを読み取ることに課題がある。	□これまでの学年で学習した内容を確認したり、つながりを感じたりできる授業づくりに努める。 □様々な活用問題を解き、自分の考えを言葉や数、式を使って表現する経験を積ませる。 □人の考えを説明したり、図や式、言葉を結び付けて説明したりする経験を積み重ねる。
	6年	○全国の平均正答率をやや上回り、どの領域も基礎的な力については、 ●解答への道筋を記述して、説明すること。 ●分数の意味理解。 ●適切なグラフを取捨選択すること。	□人の考えを説明したり、図や式、言葉を結び付けて説明したりする経験を積み重ねる。 □数ある資料の中から、適切な資料を、根拠をもって選ぶ力を学習活動の中でつけていく。 □考えを書く活動の後、適用題で考えを書く力が付いたかどうかを確認する。
理科	6年	○全国の平均正答率を上回り、どの領域も基礎的な力については、 ●数年前に学習した知識の定着度が低い。(電気や磁石の性質)。 ●実験における、条件の正しい制御の仕方。 ●多くの情報の中から、解決の着眼点を見出すこと。	□ドリルパーク等を活用して、自学で既習事項の復習を進める。 □実験における比較の条件制御について授業の中で丁寧に考える活動を継続する。 □学習のまとめ方を工夫し、授業や自学で分かりやすくまとめる経験を積み重ねる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学校に行くことが「楽しい」と肯定的な回答をした児童が多い。(4・5・6年) ○友達関係を「満足」している児童が多い。(6年) ○課題と思われる事柄であってもプラス思考で捉え、意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ●新聞を読むことや読書量に課題がある。(4・5・6年) ●週に数回ICT機器を活用しており、市とは同程度である(4・5年)が、全国と比べて少ない。(6年)	□友達との関わり合いを通して、学びを深めるための対話力を育成するために、「傾聴」「反応」を大切に授業づくりに努める。 □ICT機器のよさを生かし、積極的に取り入れていく。 □学校図書館との連携を図り、授業の中で新聞を活用したり、読書の幅が広がるように働きかけたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○平日1時間以上家庭学習(塾も含む)をしている児童が、全国5割強に対し、本校は6.5割程度いる(但し2時間以上の割合は低い)。(6年) ○国語や算数の宿題をきちんとしていると回答した児童が多い。(4・5年) ●一日30分以上読書をしている児童が、全国3割に対し、本校は2割である。(6年) ●予習・復習をしていると回答した児童は全国を下回る。(4・5年)	□家庭学習において、宿題だけでなく自学の質と量を見直し、家庭学習に向かう意欲の向上を図る。 □ファミリー読書など家庭での読書を促す取り組みや、新聞社のワークシートなどを活用し、家庭学習でも本や新聞に触れる機会を設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「人が困っている時に進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた児童が10割。(6年) ○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」意欲が高い。(6年) ○「自分が住んでいる地域が好き」と肯定的に回答した児童が9割。(4・5年) ●「地域をよくするために何をしたらよいか、考えることがある」に肯定的な回答をした児童が少ない。(4・5年)	□生活科や社会科、総合的な学習の時間などの学習を通して、ふるさとへの愛着や誇りを具体的な行動に表し、地域の一員として地域に貢献しようとする意欲を喚起するような学習活動をしていく。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立さくら小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 6年生の理科の平均正答率は、全国平均正答率をやや上回った。
- 5年生の国語では、物語の内容の読み取りが、全国平均正答率を大きく上回った。
- 4年生の算数では、測定の領域における長さ・重さの問題で、全国平均正答率と同程度だった。
- 6年生の国語の平均正答率は、全国平均正答率をやや下回り、算数の平均正答率は、全国平均正答率を大きく下回った。
- 5年生の国語、算数の平均正答率は、全国平均正答率を大きく下回った。
- 4年生の国語、算数の平均正答率は、全国平均正答率を大きく下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる。 ○書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることができる。 ●漢字の読み書きに課題がある。 ●話の内容を聞き取るのに課題がある。	□書取会の範囲の漢字の読みをペアで読む練習をする。 □話を聞く場面で、聞き終わった後に、クイズ形式で話の要点を確認する。
	5年	○物語の内容を読み取ることができる。 ●説明文の内容を読み取ること課題がある。 ●文章を書くこと(文章の構成・事例と自分の考えの関係性・相手を意識して伝えたいことを書く)に課題がある。	□文節のつながりを意識して短文を作る。 □構成メモを作成し、伝えたいことを文章にまとめる活動を増やす。
	6年	○文を読んで要旨をとらえる力がある。 ●記述の問題が正答率が低い傾向がある。 ●文章と文章の結びつきをとらえ、必要な情報を選択する力に課題がある。 ●文章の構成を意識しながら読むことに課題がある。	□国語に限らず原因と結果、意見と根拠など事柄の同士の結びつきについて書いたり話したりして表現する機会を設ける。 □国語の書く学習の場面で、文章の構成を大切にしながら読んだり書いたりする経験を積む。
算数	4年	○コンパスを使って正三角形の作図をすることができる。 ○基本的な計算はできる。 ●棒グラフの中で、何倍かを求めることに課題がある。 ●ある時刻から一定時間前の時刻を求めることに課題がある。	□総合的な学習や会社活動でアンケートを取ってグラフにまとめる活動を取り入れる。社会の学習でグラフの読み取りなどに力を入れる。 □低学年の頃から時計を使つての操作をたくさん経験したり、時間を数直線で示し視覚化したりする。
	5年	○概数の表し方を理解している。 ●基本的な計算(計算のきまり 割り算 小数・分数の計算)に課題がある。 ●いろいろな形の仕組み理解や作図(分度器・三角定規の扱い方)に課題がある。 ●割合を使った数量関係の説明に課題がある。	□基本的な四則計算の定着に力を入れる。 □作図等、作業的な活動を大切にすること。 □割合を図で表すことができるようにする。
	6年	○比例、角の大きさ、図形の基本的な事柄について理解できている。 ●割合の分野に弱みがある。 ●異分母分数の大小比較の考え方(通分)が理解できていない。また、通分の考え方を使って問題解決ができていない。	□数直線を利用することで量感を大切に、問題解決する経験を積む。 □量感を大切にすること。
理科	6年	○基本的な事柄はおおむね理解していて、学習してからの時間が長いと理解度が下がる傾向がある。 ●記述によって回答する問題に弱みがある。 ●エネルギー分野(電気)に弱みがある。	□関連する分野の学習の際に既習事項の復習を行う。 □各学年で重点的に扱う問題解決の場面で1人1人が書いて表現する機会を保障する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学校の決まりを守ったり、困っている人の手助けをしたりする児童が多い。また、課題を協力して解決しようとしている児童がほとんどである。 ○話し合いにおいて、相手の話をしっかりと聞き取ることができている。 ●説明文を読んで、図や表と結びつけて考えることが苦手な傾向にある。(6年) ●物語を読んで主人公の気持ちを考えたり、説明文を読んで筆者の言いたいことを考えたりすることが苦手な傾向にある。(5年)	□授業の中で文章問題から図や言葉で自分の考えを表現する活動を取り入れる。苦手な児童には個別に支援する。 □物語や説明文を読み、主人公の気持ちを考えたり、筆者の言いたいことを図や表と結びつけてまとめる活動をする。 □多様な考えが生まれる場面を設定し、その話し合いの中で質問したり、納得するまで議論したりして考えを深められるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○4年生は家庭学習をしっかりと行う児童が多い。 ○文章を書くときには、覚えた漢字を使おうとしている児童が多い。 ●5,6年生は返されたテストの答案の見直しや、授業で習ったことの復習をしている児童は少ない。 ●1日当たりの勉強時間が少なく、新聞を読んでいる児童も少ない。	□家庭学習を行う際には、以前まちがえた問題の見直しや、予習・復習をするようにする。 □学校の小学生新聞などの活用を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校や自分の住んでいる地域が好きな児童が多い。 ●一方で地域の行事に参加する児童は少ない傾向にある。 ●自己肯定感が低い。(5,6年生)5年生は下位層においてよりその傾向がある。	□地域の行事に関する話をしたり参加を勧めたりする。 □一人一人の良さを認め合えるような活動を積極的に取り入れ、学級便りなどでも紹介する。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立朝陽小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査  
 ●4年生国語に関しては、全国平均を大きく下回り、市の平均を下回った。(以下「平均」を省略)  
 ●4年生算数に関しては、全国を大きく下回り、市をやや下回った。  
 ●5年生に関しては、国語、算数ともに全国や市を大きく下回った。  
 全国学力調査  
 ●国語、算数に関しては、全国や県、市を大きく下回った。  
 ●理科に関しては、全国をやや下回り、県と同程度、市を下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○説明文や物語文の読み取りに強みが見られる。 ●ローマ字の読み、国語辞典の使い方に課題が見られる。 ●条件付き作文は、条件を満たして書くことに課題が見られる。	□新出漢字を学習するときに、漢字の仕組みについても伝える。 □国語辞典を引く習慣づけをする。 □条件付き作文を書く練習をしたり、スピーチなどで理由をつけて話す練習をしたりすることで、理由をつけて考えを話す機会を作る。
	5年	○物語文の内容の読み取りに強みが見られる。 ●漢字の読み書き、言葉の学習(ことわざ・漢字辞典の使い方)に課題が見られる。 ●条件付き作文を書くことに課題が見られる。	□新出漢字を学習するときに、漢字の仕組みについても伝える。 □国語辞典、漢字辞典を引く習慣づけをする。 □条件付き作文を書く練習をしたり、文章中から引用して自分の考えを話したりするような機会を作る。
	6年	●文章中から書き抜くことに課題が見られる。 ●抽象化された選択肢から正答を選び出すことに課題が見られる。 ●複数の資料を正しく読み取り、関連付けることに課題が見られる。	□複数の資料を関連付けて読む経験を積む。 □条件付き作文を書く練習をしたり、文章中から引用して自分の考えを話したりするような機会を作る。
算数	4年	○引き算の計算の仕方についてよく理解できている。 ○「図形」「測定」「データの活用」の領域は、目標値と同程度だった。 ●何倍かを求めるための除法の式を選ぶ正答率が約5割。	□問題文の内容を理解できるように図や絵で表す活動を取り入れる。 □数のしくみや計算練習を多く取り入れる。
	5年	●わり算の筆算の仕方について課題が見られる。 ●説明などの記述問題で無回答が多く見られる。	□基本的な数のしくみや計算の仕方についての練習を行う。 □理由や説明を文章で書き表す活動を多く取り入れる。
	6年	●分数の仕組みや計算のきまりについての理解に課題がある。 ●条件から選んだり見当をつけたりすることに課題がある。 ●記述問題で誤答だったり無回答だったりする。	□分数の仕組みを理解して計算する問題に取り組む。 □抽象的な問題に対応できるように、図や数直線を使う等して自分が分かりやすい方法を見つけ、考えを交流する場を設定する。
理科	6年	○条件制御を含め、課題解決のための実験方法を考えることができている。 ●課題解決の流れが身に付いていない。 ●金属の性質についての理解が不十分。 ●基本的な内容でも、学習してから期間が開くことで忘れてしまっている。 ●学んだことを生かして思考することが難しい。	□課題解決の流れに沿って授業を展開する。 □問題を児童が自分たちで作っていく。 □金属の性質について、電気と磁石の実験結果を比較してまとめるなど、整理して理解できるようにする。 □既習事項と関連付けて授業を展開する。 □日常に生かされているものを紹介したり、学んだことを生かした工作や実験等を行い、共有する場を設けたりする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●辞書の利用が低い。 ●クロスワードなど、言葉を使ったパズルで遊ぶと回答した割合が低い。 ●計算や図形を使ったパズルで遊ぶ割合が低い。	□辞書を繰り返し活用していく。授業の中で辞書に触れあう機会を作る。 □発展的な学習を取り入れていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●平日2時間以上学習すると回答した人が少ない。 ●家庭での読書時間が少ない。	□家で親子読書の時間をとる。 □宿題の量を調節する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●夕食を家の人と食べている割合が低い。 ●家の手伝いをしている割合が低い。	□家族そろってごはんを食べられるように声をかける。 □お手伝いについて各学級で触れる。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生、全体の正答率については、国語・算数ともに、全国平均を大きく上回っている。                  ○国語の基礎及び算数の基礎・活用においては、全国を大きく上回っている。                  ●かけ算の正答率が約6割。</p> <p>5年生、全体の正答率については、国語・算数ともに、全国平均を大きく下回っている。国語は市平均と差は見られない。算数は市平均をやや下回る。                  ○国語の「読むこと」及び算数の「図形」の正答率は、市平均をやや上回る。                  ●国語の「聞くこと」及び「考えを事例に結び付けて書くこと」の正答率は市平均を大きく下回る。</p> <p>6年生、全体の正答率については、国語・算数ともに、全国平均をやや上回っている。理科は全国平均を大きく上回っている。                  ○国語の「読むこと」算数の「変化と関係」及び理科の「粒子」は、全国を上回っている。                  ●国語の「書くこと」算数の「分数」及び「理科の電磁石」などで、正答率がやや低くなっている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○言語文化に関する事項は、正答率が非常に高い。 ●司会の役割の読み取りの正答率は、約4割。	<input type="checkbox"/> 文章を読み取る力をつけるために、宿題で文章問題を定期的に出す。 <input type="checkbox"/> 言葉の意味調べの時間を確保する。 <input type="checkbox"/> 語彙力の向上を図るために、図書館司書と複数で指導する機会を持つ。
	5年	○中心となる語を見つけて要約していることの正答率が、市平均を大きく上回っている。 ●自分の考えとそれを支える事例との関係を明確に書くことの正答率が、市平均を大きく下回っている。 ●後半の問題の無回答率が3割程度になっている。	<input type="checkbox"/> 話す場面や書く場面において、自分の考えに理由をつけるように指導する。 <input type="checkbox"/> テストの時間制限を設けるなど、時間を意識した活動を多く取り入れる。
	6年	○書いてあることを基に、自分の言葉で要約して書くことの正答率が高い。 ●話し合いの様子から、発言の意図を読み取ることの正答率が低い。	<input type="checkbox"/> ペアやグループでの活動は、話し合いの視点を明確にする。 <input type="checkbox"/> 他者評価のカードを書く際、相手の言動の意図に触れるようにする。 <input type="checkbox"/> 読書活動を推進する。
算数	4年	○たし算・ひき算の正答率は約9割。 ●秒から分への時間単位の変換の正答率は、全国平均を下回る。	<input type="checkbox"/> 知識の定着を図るために、朝の補充学習の時間に、プリント発行しを復習する。 <input type="checkbox"/> 既習内容の応用力をつけるために、文章問題を定期的に行発する。
	5年	○小数や分数についての理解については、正答率が8割を超えている。 ●伴って変わる二つの数量関係を式に表すことは、正答率が4割を切っている。 ●角の大きさの問題は、正答率が5割を切っている。	<input type="checkbox"/> 二つの数量関係を式に表すことを授業で扱う機会を増やす。(変わり方調べ) <input type="checkbox"/> 角の大きさについては、既習内容の問題を宿題等で実施する。
	6年	○伴って変わる二つの数量関係についての問題の正答率が高い。 ●分数に関する問題の正答率が低い。	<input type="checkbox"/> 分数の意味を正しく理解するために、分数を様々な表現で表すようにする。 <input type="checkbox"/> 簡単に数量関係を整理するための図を繰り返し使う。
理科	6年	○粒子に関する問題の正答率は全国平均を大きく上回る。 ●乾電池二個を直列に正しくつないでいる物を選択する問題の正答率が低い。	<input type="checkbox"/> 引き続き、実験の考察を自分の言葉で表すことができるようにする。 <input type="checkbox"/> よりよい表現を取りあげ、全体に広げる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業で分からないことがあれば、先生に質問する割合が高い。 ○宿題を提出している児童の割合が高い。 ●めあてを意識して学習に取り組んでいる児童の割合が低い。 ●自分の考えを式、図に置き換えて考えている児童の割合が低い。 ※少人数の学校のため、学年による隔りがあります。	<input type="checkbox"/> 個人思考と学び合いの学習時間を確保し、見通しを持って取り組めるように、めあて・まとめ・振り返り中心に、授業の組み立てを考える。 <input type="checkbox"/> オープンエンドの授業を取り入れ、自主学習を促す。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●予習復習に取り組んでいる児童割合が低い。 ●授業以外の学習時間が少ない児童の割合が高い。 ※少人数の学校のため、学年による隔りがあります。	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じた適量な宿題と、家庭学習時間や内容のめやすの提示。 <input type="checkbox"/> 学級だより等にパズルなど学習意欲の向上に効果的なものを提供する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家の人と決めた約束を守っている児童の割合が高い。 ●テレビのニュースや新聞などに興味を持っている児童の割合が低い。 ●地域の行事に参加している児童の割合が低い。	<input type="checkbox"/> 学級活動や道徳を中心に生活時間についての指導を行う。 <input type="checkbox"/> 「多伎っ子ウィーク」の取り組みを継続して行う。 <input type="checkbox"/> 可能な時には、授業の中にも、社会事象や新聞記事を取り入れる。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全国学力調査の国語の平均正答率が、全国平均と同程度、県平均より上回っている。また、市学力調査の国語の平均正答率が、市平均より大きく上回っていたことから、国語の指導の成果が表れていることがうかがえる。  
 ○全国学習状況調査の結果、「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っていたら進んで助ける」「友達や周りの人の考えを大切に課題解決に取り組もうとしている」「先生に認められている」の回答の割合が全国より上回っている。また市学習状況調査の結果から、「学校が好き」「自分が好き」「地域が好き」と肯定的な回答をした児童の割合が高い。このことから、目標をもち、自分や周りの人を大切に生活しようとする児童が多いことがうかがえる。  
 ●国語・算数ともに、たくさんの情報から必要な情報を取捨選択して解く問題、求め方や理由を書く問題に課題がみられる。  
 ●教科や領域、観点別に見ると、学年により課題が異なる。児童の実態に応じた授業改善が求められる。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○教科の平均正答率が全国平均正答率を大きく上回っている。 ○言葉(漢字、ローマ字、主語・述語)が全国平均正答率を大きく上回っている。 ●「話すこと・聞くこと」の領域が、全国平均正答率を下回っている。	□長い文章を読み取って、要約する活動を取り入れる。 □話し合い活動の中で、決まったことをまとめる時間をもつ。
	5年	○教科の平均正答率は市平均を大きく上回り、全国平均と同程度。 ○ほとんどの領域で市平均、全国平均を上回っているか同程度。 ●物語の内容の読み取りでは、市、全国平均を下回っている。 ●言葉の学習、文章を書くことは目標値に達していない。	□説明文や物語文、新聞記事等の読み取り、要約といった学習活動に力を入れる。 □作文指導の際、基本的な作文のきまりを徹底し、分量や内容などの条件を頭に入れて書くことを意識させる。 □話し合い活動を多く取り入れ、言葉の力をつける。
	6年	○教科の平均正答率は全国と同程度である。県平均より上回っている。 ○言語文化に関する事項については全国、市平均共に大きく上回っている。 ●情報の扱い方に関する事項については全国、市平均を大きく下回っている。	□説明文において、大事なことについて線を引いたり、序論、本論、結論を意識したりする活動を通して読解力を育てる。 □読み取ったことを短くまとめることで情報を精選する力を育てる。 □まとめたことを交流し、相手に応じて情報を改善していく力を育てる。
算数	4年	○教科の平均正答率は全国平均正答率と同程度である。 ●「かけ算」の領域が、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●自分の考えを理由をつけて説明する問題の正答率が、全国平均正答率を大きく下回っている。	□自分の考えを図や式、言葉で説明する活動を大切に指導する。 □計算の仕方だけでなく、計算の仕組みについても丁寧に指導する。
	5年	○教科の平均正答率は市平均を上回り、全国平均と同程度。 ○ほとんどの領域で市平均、全国平均を上回っているか同程度。面積やグラフの問題は市、全国平均を大きく上回っている。 ●数と計算の領域で、数の仕組み(小数)が市、全国平均を下回り、わり算、計算のきまりが市、全国平均を大きく下回っている。	□前学年までの学習を常に意識させ、学習内容の積み上げを大切にしていく。 □視覚的工夫で数の概念を量的に理解させていく。 □繰り返し練習で計算力をつける。 □問題を解く前後の「見当をつける」「見直しをする」習慣を更に強化し、徹底する。
	6年	○教科の平均正答率は県平均と同程度。全国平均より下回っている。 ○データの活用の領域では、市平均をやや上回っている。 ●数と計算の領域において全国平均を下回っている。 ●測定の領域では、全国平均を大きく下回っている。	□繰り返し練習し、計算力をつける。 □文章から読み取ったことを図で示したり線分図にしたりして、数量関係を明らかにする。 □読み取ったことを説明する場面を多く設けるよう指導する。 □問題を解く時に「見当をつける」「見直しをする」ことを意識させる。
理科	6年	○教科の平均正答率は県、全国平均と同程度。 ●エネルギーを柱とする領域に関して市、全国平均を大きく下回っている。 ●地球を柱とする領域に関しては全国平均を下回っている。	□繰り返し問題を解くことで知識・技能を定着させる。 □結果からわかったことだけでなく、そこからどんなことが考えられるかを考察するように指導し、思考を深める。 □理科の見方・考え方を意識した指導を行うとともに、実生活に結び付けられるようにしていく。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いの場面で、お互いに協力しながら課題の解決に取り組もうとする児童の割合が高い。 ○タブレットを使った学習に意欲的な児童の割合が高い。 ●学習状況調査の結果より、学んだことが定着していない内容が見られる。	□単元を通して身につける力を明確にし、「めあて」と「振り返り」を大切に授業に日々取り組む。 □学習したことを他教科で活用したり、既習内容を繰り返し指導したりすることにより、定着を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○学習したことを今後の学習で活用しようとする児童の割合が高い。 ●家庭学習や読書の取組に個人差がある。	□学んだことが定着するために宿題の内容を工夫したり、目的意識をもって取り組むことができるような自主学習の仕方を指導したりする。 □家庭と連携して読書に親しむことができるよう、親子で一緒にする「家庭読書」に全校で取り組む。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の「ひと」「もの」「こと」を活用した学習に意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ○地域が好きで、進んで地域に関わろうとする児童が多い。	□総合的な学習の時間や生活科等の学習において経験を豊かにし、情報を活用する活動を充実するとともに、国語や算数の学習で学んだ力を生かすようにする。 □学習の様子を「学校・学級・学年通信」やブログで発信する。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

《国語》 ○4、5、6年生の全体の正答率は、全国平均と同程度である。5年生の思考・判断・表現に関する内容においては、全国平均を大きく上回る。 ○6年生の知識及び技能に関する内容のうち、「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する事項領域において、全国平均を大きく上回る。 ●5年生の知識・技能に関する内容において、全国平均を下回る。6年生の思考・判断・表現に関する内容のうち、「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、全国平均を大きく下回る。 《算数》 ○5年生の全体の正答率は、知識・技能、思考・判断・表現のどちらの内容も全国平均を大きく上回る。6年生の全体の正答率は、全国平均と同程度である。「変化と関係」「データの活用」の領域において、全国平均を大きく上回る。 ●4年生の全体の正答率は、全国平均を下回る。特に、思考・判断・表現に関する内容において、大きく下回る。 ●6年生の「測定」の領域で、全国平均をやや下回る。記述式の問題形式に課題がみられる。 《理科》 ○6年生の理科全体の正答率は、全国平均よりも大きく上回る。ほとんどの分野・領域において全国平均を大きく上回る。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語文と説明文の内容を読み取ることは、全国平均を大きく上回っている。 ●漢字を書くこと、発問に対して条件に合わせて考えをまとめることが全国平均を大きく下回っている。	□読書の機会を設定し、読書量を増やす。 □習った漢字を使うように、国語辞典を用いて前年度までに学習した漢字を調べて書くことを指導する。
	5年	○物語文や説明文の内容を読み取ることは、全国平均を大きく上回っている。 ●漢字を読むことが全国平均を大きく下回り、漢字を書くことが全国平均を下回っている。	□自分に適した漢字の覚え方が身に付けられるように、学習方法の提示や助言を行う。 □作文の学習などで、習った漢字を使うように声をかけることで、意識づけを行い、適切な評価も行う。
	6年	○漢字を正しく書くこと・説明文を読んで適切なものを選択すること・適切な言葉を書き抜く力は、全国平均を上回っている。 ●説明文を読み取ったり資料を用いて自分の考えを書いたりすることは全国平均を下回っている。	□説明文や物語文などの長文を読む習慣が身に付くように、読書量を増やす。 □授業の中で、条件を設定して考えを書くことを計画的に取り入れる。
算数	4年	○時刻と時間は、全国平均を大きく上回っている。 ●数の相対的な大きさを理解する力や、文章問題の内容を理解する力が全国平均を大きく下回っている。	□基礎的な問題だけではなく、文章問題・活用問題の復習をする。 □位取り表などを活用し、書くことを視覚的に意識できるように指導する。
	5年	○全ての内容において全国平均を上回っており、特に小数、折れ線グラフと表が全国平均を大きく上回っている。 ●四角形の辺の性質が全国平均を下回り、数の相対的な大きさについての理解が全国平均を大きく下回っている。	□分度器やコンパスなどの道具を使って図形をかく学習を繰り返し行い、かくことが難しい児童への個別指導を行う。 □既習内容の復習をドリルパークや自学メニューとして積極的に取り組むことで、一人一人の基礎学力をさらに高めていく。
	6年	○おおむね全国平均を上回っている。特に、伴って変わる2つの量に着目して必要な数量を見出すことが大きく上回っている。 ●分数の計算・はかりの目盛りを読むこと・割合については全国平均を下回っている。	□既習した計算問題を自学で復習する習慣を身に付ける。 □既習した学習が定着するように、プリントを使って計画的に復習していく。
理科	6年	○おおむね全国平均を上回っている。特に、電流がつくる磁力についての知識や水の蒸発と温度の関係の理解が上回っている。 ●電気をとおす金属や磁石に引き付けられる金属についての知識が全国平均を下回っている。	□既習したことが定着するように、プリントなどを使って家庭学習に取り入れていく。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いにおいて、自分の考えを進んで話していると回答した児童の割合が全国よりも高い。 ○伝えたいことを明らかにしたり、改行などの形式を工夫したりして文章を書いていると回答した児童の割合が全国よりも高い。 ●物語文や説明文で、主人公の気持ちや筆者の言いたいことを考えていると回答した児童の割合は、全国より大きく下回っている。 ●学校での学習の中で、PC・タブレットを活用することに関する項目において、全国との差が大きい。	□話し合いのスキルトレーニングの時間やだんだんタイムを通して、話す聞く態度等を身につけながら、自分の考えを表現する力を高めていくようにする。 □授業の中で、グループやペア学習の時間を設け、自分の考えをしっかりと表現できるようにする。 □物語文の学習で、登場人物の心情を読み取ったり、説明文の学習で、学年のねらいに合わせて要点・要約・要旨などをまとめることに重点をおく。 □学習のねらいに迫るためのタブレットの活用方法の情報交換を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○5年生は、国語・算数の宿題をきちんとしていると回答した児童、4年生は、算数の宿題をきちんとしていると回答した児童の割合が全国よりも高い。 ●本(マンガや雑誌を含まない)や新聞を読んでいる児童が少ない。 ●家の人に言われなくても進んで勉強をしている児童の割合は、5年生は全国よりも高いが、4年生は低い。 ●家庭での学習時間が、学年×10+10分より少ない児童が多い。	□様々な内容の自学ノートを紹介することで、自分に合った自学に意欲的に取り組むことができるようにする。 □家庭学習に対して、保護者の協力が得られるように、学年だよりや学級だより等の内容を工夫する。 □定期的に、新聞記事を親子で読んだり、新聞記事から内容を読み取ったりするワークシートの家庭学習を実施する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分の住んでいる地域が好きと回答した児童や自分は家の人から認められていると回答した児童の割合が全国よりも高い。 ○自分で時間を決めてテレビを見てると回答した児童の割合が全国よりも高い。 ●自然の中で遊んだり、地域の大人に関わってもらっていると回答した児童が少ない。	□生活科や総合的な学習の時間等において、引き続き、地域や応援隊の方々に関わっていただく学習を積極的に進めていく。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 【国語】○基本的な文章の読み取り方は理解している。  
 ●自分の伝えたいことを明確に表現することや問題の条件に合った文章を書くことに課題がある。
- 【算数】○基礎・基本の内容はおおよそ理解している。  
 ●分数において、意味や数直線上での表し方や大小の理解に課題がある。  
 ●図や式、言葉を用いて説明することに課題がある。
- 【理科】○基礎・基本の内容は理解している。  
 ●思考・判断・表現の観点において、全国・県を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語文の内容を読み取ることは、全国の平均正答率と同程度。 ●漢字の読み書きやローマ字の読みが全国平均正答率を大きく下回っている。(特にローマ字) ●伝えたいことを明確にし、文章の構成を考えて、条件に合うように自分の考えを明確に書くこと。	□辞書を使っての意味調べや読書の時間を確保する。 □タブレットのタイピングソフトを利用してローマ字に慣れる。 □条件作文を書いたり、文章を推敲したり、自分の意見や理由を伝えたりする機会を増やす。
	5年	○聞き取り問題において、必要なことを聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えること。 ●漢字の読み書きが全国・市の平均正答率を大きく下回っている。 ●文章を書く問題において、問題文の条件を正確に理解すること。	□漢字練習の方法を改善する。 □学習用語の定着を図ったり、意味調べや読書など語彙を増やす取組を進めたりする。 □条件付き作文を書く機会を増やす。
	6年	○「読むこと」の問題において、県平均正答率をやや上回っている。 ●「話すこと・聞くこと」の問題において、全国・県の平均正答率を大きく下回っている。 ●思考に関わる言葉を理解すること。	□聞かれている内容・言葉を理解するために、意味調べや読書など語彙を増やす取組を進める。 □思考に関わる言葉(教科書の言葉の広場・力)をそれぞれの単元の学習の中で意識しながら指導していく。
算数	4年	○繰り上がりや繰り下がりのあるたし算・ひき算の正答率が全国平均正答率を大きく上回っている。 ●分数において、数直線上での表し方や分数の意味を理解すること。 ●グラフを読み取ることや図や言葉、式を用いて説明すること。	□分数やわり算、時ごとと時間の学習を繰り返し行い、定着を図る。 □ドリル学習を引き続き積極的に行う。 □言葉、図、表、数直線、式を使って自分の考えを書く活動を入れる。
	5年	○折れ線グラフをもとに考察すること。 ●繰り上がりのある分数のたし算、小数のわり算、角の大きさについて理解すること。 ●数量関係を割合を使って比較し、説明すること。 ●言葉や数を用いて説明すること。	□基礎的な計算や知識(分数・わり算・角の大きさ)を丁寧に指導し、定着を図る。 □問題場面の数量関係をとらえることができるよう、図や表、数直線を使って解く活動を取り入れる。 □自分の考えを説明し、書く活動を取り入れる。
	6年	○はかりの目盛りを読む問題において、全国・県の平均正答率を大きく上回っている。 ●異分母分数の大小を理解すること。また、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。 ●図形の意味や性質を理解すること。	□割合や百分率をもう一度押さえる。 □数直線を用いて、数量の関係を整理して問題に取り組む。 □図形領域では、練習問題として性質や定義を確認できる問題に取り組む。
理科	6年	○ヘチマの成長に関する問題において、全国・県平均正答率を大きく上回っている。 ●水の温まり方についての問題において、全国・県平均正答率を大きく下回っている。 ●問題を読み取ること。(問題の中に出てきているワードに影響される傾向にある。)	□実験をする際に、ねらいやポイントをきちんと押さえた上で取り組む。また、実験結果とその結果からわかることをまとめる活動を入れる。 □児童が実験方法を考える場(時間)を設定する。 □問題に書いてある図をきちんと読み、学習したことを押さえて、問いに取り組む。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○将来の夢や目標をもっている児童が多い。 ○授業で学んだことを他の学習や普段の生活の中で活用している児童が8割。 ●分からない言葉を辞書で調べる児童の割合が低い。 ●自分から質問したり、話し合い活動に参加したりする意欲が低い。	□読書の推進、辞書の活用、プリント学習などにより、語彙を増やし読解力を高める取組を行う。 □補充学習の時間等を通して、発言しやすい環境をつくり、話し合い活動の充実を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○朝食を毎日食べている児童が9割。 ○宿題をきちんとしている児童の割合が高い。 ●新聞や本を読んでいる児童の割合が低い。	□友達自主学习の取組を紹介する場を設けたり、思考力を高める課題を入れたりして、家庭学習の質の向上をはかる。 □チャレンジ週間を利用してよりよい生活習慣ができるよう啓発する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○周りから認められていると感じている児童の割合が高い。 ●地域の人との関わりが少ない。	□地域ボランティアを招いての交流活動及び学習サポート活動を計画的に行う。 □コミセンと連携し、地域の行事に参加できるように働きかける。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立遙堪小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生は、国語、算数ともに、市平均正答率・全国平均正答率を大きく下回った。
- 5年生は、国語、算数ともに、市平均正答率・全国平均正答率を大きく下回った。
- 6年生国語では、県・全国ともに平均正答率を大きく下回った。
- 6年生算数では、全国平均正答率を大きく下回り、県平均正答率も下回った。
- 6年生理科では、全国平均正答率をやや下回ったが、県平均正答率と比較すると同程度だった。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「漢字を読む・書く」では、市・全国平均正答率ともに大きく上回った。 ●観点別に見ると、思考・判断・表現の平均正答率は、市・全国ともに大きく下回っている。 ●特に「書くこと」の領域や、記述式問題に課題がみられる。	□授業の中で、一人ひとりが考えをもてるよう、学習形態を工夫していく。また、自分の考えを書く活動を意図的に設定していく。 □記述式や活用の力をつけるドリル学習を行う。
	5年	○「漢字を読む・書く」では、目標値や全国正答率も上回る解答もあった。 ●観点別に見ると、思考・判断・表現の平均正答率は、市・全国ともに大きく下回っている。 ●特に「読むこと」「書くこと」の領域や、記述式問題に課題がみられる。	□聴く力をつけるために、国語だけでなく他教科の活動でも聴いたことをメモし、まとめたアウトプットしたりする活動を学習に意図的に取り入れていく。 □教科書での学びを図書館活用によって生かす授業づくりをしていく。
	6年	○文章全体の構成をとらえて要旨を把握する「読むこと」の問題は、県・全国平均正答率と同程度だった。 ●記述式の無回答率が高い。	□文章を読み、目的に応じて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりできるようにするために、要約学習に力を入れ、必要な情報を選択する力をつけていく。
算数	4年	○かけ算の筆算、円の直径、小数のしくみなどを理解している児童が多かった。 ●観点別に見ると、思考・判断・表現の平均正答率は、市・全国ともに大きく下回っている。 ●「データの活用」「測定」の領域に課題が見られる。	□説明ができる児童がモデルとなって全体に説明したり、説明に自信のない児童に対して説明したりする活動を意図的に設定する。
	5年	○面積の問題については、市平均正答率と同程度であった。 ●全体的に見ると、活用問題だけでなく、基礎問題でも市・全国平均正答率を大きく下回った。 ●特に「変わり方調べ」「簡単な割合」については、数量関係について理解できていない児童が多い。	□ミライシード等のICT活用により既習事項の定着を図る。 □教師が系統性を意識し、児童に考えさせたい既習事項や見方を分かって授業づくりをすることで、児童自身が学びを統合できるようにする。
	6年	○問題別に見ると、「角の大きさ」について理解している児童が多かった。 ○図形の性質、測定方法や計算の仕方などの知識・技能は身に付いている児童が多い。 ●観点別に見ると、思考・判断・表現の平均正答率は、市・全国ともに大きく下回っている。 ●「データの活用」の領域に、特に課題が見られる。	□児童の実態に応じて実物を示したり経験させたりすることで、生活経験とつなげ、量感を身につけられるようにする。 □解答例などのひな形に合わせて自分で説明する活動を行い、言語活動を充実させていく。
理科	6年	○評価の観点別に見ると、知識・技能の平均正答率は県・全国ともに上回っている。 ○「生命」を柱とする領域の選択式・短答式問題は、県・全国を上回る平均正答率となった。 ●思考・判断・表現の平均正答率は県・全国ともに下回っている。 ●記述式の正答率は、県・全国ともに大きく下回った。	□普段の授業から、自分の説明を話すだけでなく書いてまとめる活動を設定していく。 □未知の課題でも児童自らが問題解決の道筋を立てられるように、普段の授業で理科の思考の流れの過程を意識した授業展開を工夫していく。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語や算数で先生の話をしっかり聞こうとし、学習が将来役立つと考えている児童が多い。 ○ICT機器で文章作成や情報収集、情報の整理をしたり、自分のペースで学習を進めたりすることができると感じている児童が多い。 ●図書館や辞書を利用して勉強している児童が少ない。 ●国語で、文章と図表などを結びつけて必要な情報を見付けることができると感じている児童は、県・全国と比べ少ない。	□情報活用能力を向上させるため、授業で図書館を活用する。そのために、国語で学んだことを総合的な学習の時間で活用させるなどの教科等横断的な学びを計画的に行っていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとしている児童が多い。 ○算数のテスト勉強をする際、大事なところはどこか考えながら勉強していると感じている児童が多い。 ●家庭学習に取り組む時間が、学年目標時間より短い児童が多い。	□家庭学習と授業をつなげる課題の工夫(家庭学習で調べてきたことを使って授業で話し合う等)により、必要感をもって家庭学習に向かうことができるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分が住んでいる地域が好きな児童が多い。 ○地域の行事に参加している児童が多い学年もある。 ●地域の大人と関わりがあると感じる児童が少ない。	□引き続きコミセン等と連携し、地域の人・もの・こととつながる教育活動を工夫することで、ふるさとへの愛着を深める。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荘原小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生	国語科は、市平均を大きく上回り、全国平均も上回っている。領域別でみると「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」、観点別では、「知識・技能」について、市平均、全国平均を大きく上回り、「思考・判断・表現」も市平均、全国平均を上回っている。 算数科は、市平均、全国平均を大きく上回っている。領域別では、「数と計算」「図形」が市平均・全国平均を大きく上回っている。観点別では、「知識・技能」は市平均、全国平均を上回っている。
5年生	国語科は、市平均を大きく上回り、全国平均よりも上回っている。領域別でみると「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が市平均、全国平均を大きく上回っている。 算数科は、市平均を大きく上回り、全国平均を上回っている。領域別でみると「数と計算」「図形」「データの活用」において、市平均、全国平均を上回っている。
6年生	国語科は、県平均、全国平均を上回っている。学習指導要領の内容においては、「知・技(1)言葉の特徴や使い方に関する事項(2)情報の扱い方に関する事項」が、県平均、全国平均を上回っている。評価の観点「知識・技能」では、県平均、全国平均を上回っている。 算数科は、県平均を上回り、全国平均と同等である。領域において「数と計算」「変化と関係」「データの活用」については、県、全国平均を上回っている。 理科は、県平均と同じだが、全国平均を下回る。領域B区分「生命」については、県や全国平均を上回るが、どの領域、観点においても全国平均を下回り、県平均と同等である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全体的に全国平均を上回っている。 ○説明文の内容を読み取ること、理由を明確にして書くことにおいて、全国平均を大きく上回っている。 ○漢字や言葉の基本的な読み・書きは定着している。 ●物語文の読み取りについて、読み取ったことをもとに活用して問題を解くことが下回っている。	□授業のまとめと振り返りを実施し、その時間に学んだことやキーワードを使って、子どもの言葉でまとめる活動を取り入れる。 □友達の意見を聞いて、自分の考えと比べたり、考えをまとめたりする場を設ける。
	5年	○漢字の読み書き、言葉の意味理解は全国平均を大きく上回る。 ○物語の内容を読み取ることが全国平均より大きく上回る。 ●説明文で段落相互の関係把握や要約することが全国平均より大きく下回る。 ●自分の考えや伝えたいことを明確にして書くことが全国平均より大きく下回っている。	□文字数や内容に条件を付けて、自分の考えを伝える作文を書く。 □文章の中で、問われていることに対して大事な言葉や文を見つけ、段落相互の関係を考える。
	6年	○漢字の書きで全国平均を上回っている。 ○適切な資料の選択の問題について、全国平均を上回っている。 ●インタビューやポスターなど、論理的にアウトプットする問題について、全国平均を下回っている。 ●要約をする・要点をまとめて説明する問題について、全国平均を下回っている。	□条件を満たしながら自分の考えを文章を書く経験を増やす。(まとめを自分で書くことも継続させて。) □説明文に置いて、図や表などに整理して要約したり、要旨をまとめたりする活動を取り入れる。 □学習の成果をまとめる際に、相手に分かりやすいようにプレゼンテーションの構成を工夫してまとめたり、前の人の発表を受けて話したりする経験を増やす。
算数	4年	○全体的に全国平均を上回っている。 ○作図などの図形の内容について、全国平均を上回っている。 ●繰り上がり繰り下がりのあるたし算やひき算について、全国平均を下回っている。	□基礎的な計算練習を授業の始めに取り入れる。 □必要な情報を用いて問題に取り組む。 □算数用語やキーワードを使って、説明したり、まとめるようにする。
	5年	○面積や図形の特徴について全国平均より大きく上回っている。 ○分数の仕組みについて全国平均より大きく上回っている。 ●変わり方調べ(伴って変わる2つの数量)が全国平均より大きく下回る。 ●億と兆(大きな数)など数の相対的な大きさや数の範囲について全国平均より大きく下回る。	□図形の問題は、具体物やICTを活用して図をイメージしてから問題に取り組む。 □変わり方を表に示したり、調査したことを表にした時の読み取り方を考えたりする。
	6年	○「数と計算」「変化と関係」「データの活用」などは全国平均を上回っている。 ●台形を選ぶ問題や、通分で基にする数とそれば何個分かなどの記述が全国平均を下回っている。 ●五角形の面積について、頂点を結んだ線分で2つの図形に分けて公式を使い説明する問題が全国平均を下回っている。	□考え方を説明したり文章で書いたりすることに慣れるようにする。 □例題を参考に、問題の解き方を書くことに慣れるようにする。 □ペア、グループで伝え合う、わかるまで質問する経験をさせる。
理科	6年	●「電気を通すもの」や「磁石に引き付けられるもの」「蒸発や水蒸気」について、全国平均を下回っている。 ●海水の温度変化に夜体積の変化等についての思考・判断が、全国平均を下回っている。	□実験の変化の様子や実験結果における考察を、キーワードを使って文章で書くようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業中、先生や友達の話をよく聞き、ノートをきちんとついたり進んで自分の考えを伝えたりすること。 ○算数の学習に対し、苦手意識はあるが、「役立つ」「わかる」「あきらめず取り組む」への肯定的回答が多いこと。 ●「分からないことがある時、質問する。」「工夫して発表している。」ことへの肯定的な回答が少ない。 ●国語の学習に対する肯定的評価が低い。	□一人一人が分かった、できた、と感じることができる授業づくりをする。 □分からないことの見直しをしたり、調べたり、質問したりする。 □分からないことは、先生や友達に質問したり、辞書や学習図書で調べたりする。 □ペアやグループ活動を適時取り入れ、児童相互での問題解決を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○言われなくても進んで家庭学習に取り組んでいること。 ○計画的に学習を進め、集中して取り組んでいること。 ●新聞や読書をする時間が少ないこと。	□予習復習を家庭学習に取り入れる。 □テレビのニュースなどについて家族と話をするようにする。 □様々な学習で辞書を使う機会を増やすようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○睡眠や食事のような生活リズムに気を付けて生活している子どもが多い。 ○家庭生活でのルールを守り、家族とのコミュニケーションをとっている。 ○地域の行事に参加している。 ●朝食をバランスよく食べていない子どももいる。 ●「大人へ相談できる」について、否定的な回答が4割と多い。 ●自身の良いところについて「たくさんある」と答えた割合が3割弱と少なかった。	□家庭での読書活動を推進する。 □いつでも誰にでも挨拶を進んでするように声をかける。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立西野小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語において、文章の内容や伝えたいことの中心を捉える問題では、全国平均を上回っている。
- 国語において、語句やことわざの意味、漢字を書く問題での正答率が全国平均を上回っている。
- 算数において、数の大きさや相対的な大きさ、四則計算などの基礎的な問題については、全国平均を上回っている。
- 理科において、電気や花のつくり、顕微鏡の操作などの基礎的な問題については、全国平均を上回っている。
- どの学年においても、国語において文章の長さや段落など構成を考えながら文章を書くことにおいて、全国平均より下回っている。
- 算数や理科では、どの学年でも、言葉や式などを用いて理由を説明する問題において、全国平均より下回っている。
- 国語や算数では、複数の文章や資料から意味を理解して取り組む問題に課題がみられる。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を聞き取り、伝えたいことの中心を捉える問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○説明文の内容を読み取り、叙述をもとに段落の内容を捉える問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●相手や目的を意識して、伝えたいことや自分の考えを明確にして書く問題では、全国平均を大きく下回っている。	□家庭学習で新聞ワークに継続的に取り組み、様々な文章表現に慣れたり、よさを感じて自分の表現に取り入れられることができるようにする。 □読書量が増えるよう、図書館で本を借りる機会を増やしたり、長文の読み物を選ぶよう、選書の際に意識した言葉かけをししたりする。
	5年	○修飾語やことわざの意味、行動を表す語句についての問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、全国平均をやや上回っている。 ●相手や目的を意識して書いたり、自分の考えとその理由などを明確にして書いたりする問題では、全国平均を大きく下回っている。	□文章を書く力を育てるために、行事後の感想や作文だけでなく、自分の意見やその理由などを書く機会を意図的に設ける。 □文章を書くときに、条件をつけたりモデルを示したりして、問題や状況、設定に合う文章を書くことができるようにする。
	6年	○漢字を書く問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○文章の中の事実と感想、意見などの関係を押さえ、文章の要旨を把握する問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●複数の文章や図表などを結び付けて考えたり、自分の考えや理由を書いたりする問題では全国平均を大きく下回っている。	□読書等を通して様々な言葉に触れる機会を増やす。 □児童が自ら課題を解決したいと感じるように学習の内容を工夫し、積極的に文章や資料に触れるようにする。 □文章の要約やタイトルつけなどに取り組み、読み取る力を高める。
算数	4年	○分数の数直線上での表し方や棒グラフの1めりの大きさなど、数量の表し方の問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○長さや重さの単位について説明する問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●棒グラフを読み取り、一方の値が他方の値の何倍かを求める問題では、全国平均を大きく下回っている。	□「何倍」の学習について復習し、もともとなる数量のいくつ分という考え方が定着するように、定期的に問題に取り組む。 □グラフを活用する力を身につけることができるように、算数だけでなく他教科でもグラフを意識して活用するとともに、グラフから情報を読み取って書き込んだりメモをしたりする習慣が身につくようにする。
	5年	○数直線上の分数を読み取る問題や小数の引き算のもんだいでは、全国平均を大きく上回っている。 ○割合について文章に合う正しい図を選んだり、比較量を求めるための立式をしったりする問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●四角形や直方体、三角定規を使った問題、答えの求め方を説明する問題では全国平均を大きく下回っている。	□図形の性質などの基礎的な理解を深めるために、朝活動などの時間を使って基本的な問題に繰り返し取り組む。 □分度器や三角定規の正しい使い方、三角定規を使った角度、ひし形などの作図について、実物投影機などを使い、視覚的に分かりやすく指導したり、児童が説明し合ったり教え合ったりして理解が深まるようにする。
	6年	○示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を表式にして計算する問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○資料の表から条件に合った項目を選ぶ問題では、全国平均を上回っている。 ●台形や角の大きさ、五角形の面積を求める問題や、分数について数直線に表したり説明したりする問題では、全国平均を大きく下回っている。	□図形の性質や角の大きさなどについては、既習事項を学年が変わっても繰り返し指導し、理解が深まるようにする。 □条件を提示された問題や長い問題文、複数の資料から考える問題などに取り組み、求めることを読み取る力をつける。
理科	6年	○電磁石の強さとコイルの巻き数の関係、顕微鏡の操作についての問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○ヘチマの花のつくりや発芽の条件、水の状態の変化についての問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて結果を導いた理由を記述する問題では、全国平均を大きく下回っている。	□理科の基礎的な知識については理解できているので、今後も科学館学習や学校での学習、実験や観察等を通して更に理解を深める。 □予想や結果から理由を書いたり、物事を関連付けて説明したりする学習を意図的に取り入れ、適切に表現する力をつける。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4・5年生では「学校のきまりを守っている」と回答した児童が全国平均を上回っており、学習規律の定着がみられる。 ●「分からない言葉を辞書で調べる」「学習で図書館を使う」と回答した児童の割合が低い。 ●「6年生で学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたい、新たな考え方に気付いたりできる」と回答した児童の割合が低い。	□辞書をいつでも取り出せる環境にし、疑問を解決しようとする意欲を引き出した後、解決することを習慣化できるようにするとともに、言葉が広がるようにする。 □読書タイムを設けて本に親しむ時間をつくとともに、図書館を授業の中で活用したり、委員会活動を充実させたりする。 □各教科や学級活動、総合的な学習の時間などで話し合い活動を充実させる。ペアやグループで自分の考えを話したり、学級全体で話し合ったりすることにより、考えを深めるようにする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○4・5年生では、「家の人に言われなくても、進んで勉強している」と回答した児童が全国平均を上回っている。 ●「6年生で学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたい、新たな考え方に気付いたりできる」と回答した児童が全国平均を大きく下回っている。	□家庭学習として新聞ワークを活用して、新聞に親しむ機会をもち、新聞の楽しさを味わうことができるようにする。 □学級で一緒に本を借りる、読書記録を記入する、おすすめの本を伝え合うなど学校での読書に関する取組を充実させるとともに、家庭に向けても読書の啓発活動を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○4・6年生では朝は自分で起きる、同じぐらいの時間に起きると回答した児童が全国平均を上回っており、一日を落ち着いて前向きに過ごすことができていると考えられる。 ●4・5年生では、地域の行事に参加していると回答した児童の割合が全国平均を下回っている。 ●全学年で勉強に役立つテレビを見ていると回答した児童の割合が低い。	□総合的な学習の時間や社会科の学習を充実させ、地域を誇りに思う気持ちを高めたり、地域の方と関わることのよさを味わったりし、積極的に地域に出かけたり行事に参加したりすることへとつなげる。また、地域の行事を紹介し、参加を促す。 □家庭学習の工夫や学級・学年だより等の活用により、学習内容を家庭で話したり、学習に役立つテレビの視聴につなげ、学ぶことの楽しさを感じることができるようになる。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立中部小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 文章を要約したり、必要な情報を読み取ること。  
 ○かけ算、割り算、小数などの計算問題を解くこと。  
 ●条件がついている文章を理解して書いたり、決められたルールの中で自分の考えを書くこと。  
 ●式や答えの理由を説明したり、角度の求め方を説明したりすること。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○文章を読み感じたことを共有する(選択問題)、文章の要約が目標値を大きく上回る。 ●文章を書くことの無回答率が4割 ●自分で条件がついている文章を理解して書くこと。	・同じ単元の全学年までの学習をとりあげ、既習事項とつなげた学習の場面を設けることで、系統的な学習を続けていく。 ・日々の中で振り返りなどの文章を書く時間を作ることで文を書く抵抗を減らし、漢字を使う機会を作る。 ・読書をする時間を定期的に作る。
	5年	○話し手が伝えたいことの内容を捉えて聞くこと。 ○行動を表す語句の知識。 ●情報を整理して決められたルールの中で自分の考えを書くこと。 ●第4学年に配当されている漢字を正しく読むこと。	・毎日の宿題に日記を入れる。(書くルール・縛りをつけて日記を書く。) ・日頃から漢字辞典を使う時間を作る。
	6年	○情報の扱い方に関する事項の平均正答率が県・全国を大きく上回る。 ○ポスターのように要点がまとめられて書かれた資料から情報を読み取ること。 ●漢字の定着や、長文の資料から要点を捉えてまとめたり、理由を書くこと。	・ただ漢字の練習をするだけでなく、音・訓読みや熟語などの使い方を確かめながら学習をすすめる。 ・段落ごとにキーワードを見つけたり、接続語に注目したりして、文章の内容を捉えられるようにする。 ・朝学習の時間などで、初見の文章から要約する練習に継続的に取り組むようにする。
算数	4年	○小数の計算や位への理解が定着している。(繰り下がりも) ○ある時刻と時刻の間の時間を求めること。 ●円の直径について理解すること。 ●式や答えの理由を説明すること。	・既習の算数用語を定着させるために、朝学習の時間に下学年の復習問題に取り組むようにする。 ・授業の中で、自分の考えた式答えについて説明する時間を設定する。 ・テストの際、時間内に終わらせるよう日ごろから声をかける。
	5年	○計算問題や、分数の大小比較、複合図形で面積の求め方などを選ぶことが目標値を大きく上回る。 ●概数に対応する数の範囲を理解すること。 ●伴って変わる2つの数の関係を式に表すこと。	・自分で解き方を説明したり、ノートに考え方を書いたりするなど、どのように考えたのか自分で説明できる力を伸ばす。 ・自分の学習の進捗に合わせて、発展問題などに取り組み、様々な問題形式に慣れるようにする。 ・日々の学習で繰り返し計算問題に取り組み、自信をつけるとともに基礎的な計算の力をより伸ばしていく。
	6年	○図形の平均正答率が県をやや上回る。 ●必要な情報を抜き出すこと。	・資料で読みとったことを自分の言葉で説明する機会を増やす。 ・立ち止まって考えさせる場を設ける。 ・朝学習の時間で多様な問題に触れるようにする。 ・習熟度など個々の段階に合った学びを取り入れていく。 ・読書の時間を確保し、活字にふれるようにする。
理科	6年	○意欲的に課題(問題)に取り組んでいる。 ○顕微鏡などの実験器具操作の技能が身についている。 ●記述式の正答率が大きく下回る。	・授業の中でノートに自分の考えを書き、内容をその場で評価する。 ・授業の中で、教科書を使って必要な情報を見つけ出す過程を取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○算数の授業では、先生の話をしっかり聞いているがやや上回る。 ●読書時間が少ない。	・授業時間に本を借りに行ったり、並行読書をしたりする機会を設ける。 ・図書館司書と協力して、低学年のうちから国語の調べ学習などで、図書館を利用するようにする。 ・ブックトークの回数を増やし、本への興味を高める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭教師に来てもらって、勉強しているがやや上回る。 ○国語の宿題は、きちんとしているが大きく上回る。 ●授業時間以外の読書時間が少ない。 ●家庭学習の時間が少ない。	・図書館の本を持ち帰り、家庭でも活字に触れられる機会を増やす。 ・知らない言葉を辞書を使って調べたり、自分の弱みを高める家庭学習を行ったりするようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○出かけるときは、家の人に行き先を言っているが上回る。 ●自分によいところがあると思うと答えた児童が下回る。	・肯定的な声掛けを意識し、学校や家庭で自信を持てるように支援をしていく。

# 令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出東小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全国・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって、下回るもの、同程度のもの、上回るものがある。4年生は、国語・算数ともに市平均正答率を下回り、全国平均正答率も大きく下回っていた。5年生は、国語・算数ともに市平均正答率を上回っており、国語では全国平均正答率と同程度、算数では全国平均正答率をやや上回っていた。6年生は、国語が全国・市平均正答率を下回っていたが、算数と理科については全国・市平均正答率を上回っていた。

【国語】○叙述をもとに文章の内容を捉えたり、構成を考えて自分の考えを話したり書いたりすること。

●学習した漢字を正しく読み書きすること。

【算数】●基本図形の作図をしたり、性質を理解して説明したりすること。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○ローマ字を正しく読むこと。 ○叙述を基に、説明文の内容を捉えること。 ●正しく漢字の読み書きをすること。 ●話し合いの内容を理解し、まとめること。	□漢字や言葉の習得に向けて、練習を継続し、定期的にテストを行う。 □物語単元において、場面や心情に注目させる。 □読書など、長文に慣れるような活動を取り入れる。
	5年	○話し合いの内容を聞き取ること。 ○物語文を読んで登場人物の気持ちを叙述をもとに捉えること。 ●漢字を正しくことや漢字辞典の使い方の理解すること。 ●調べたことをもとに文章を書くこと。 ●条件に応じて文章を書くこと。	□漢字の繰り返し練習や辞書を引いて意味などを調べる学習を行う。 □調べたことをもとに文章を書いたり、条件に応じて文章を書いたりする経験を積み重ねる。
	6年	○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくこと。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけ、条件に合わせて文章を書くこと。 ●文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ●漢字を文の中で正しく使うこと。	□文章全体を読んで要旨を把握するために、「要旨」とは何かをはっきりさせ、段落ごとや文章ごとに何を伝えたいのかを考える学習を繰り返す。 □各教科の授業や家庭学習で習った漢字を使うよう指導を徹底する。
算数	4年	○大きい数の位取り、小数のしくみ、2位数÷1位数(余りなし)など、数について理解し、基礎的な操作をすること。 ○正三角形の作図を手順通りに、正確に描くこと。 ●四則計算のきまりを使って計算すること。 ●○は△の何倍になるのか求めるなど、比べる量とともにする量の関係を捉えること。	□式を言葉や図に表す活動をくり返し行い、意味を伴った理解を促す。 □比べる量とともにする量を捉えるために、文、式、図を関連付ける活動を検討。 □文章題を考えると、図や数直線に数量の関係を表す活動を取り入れる。
	5年	○概数の表し方を理解すること。 ○小数第一位～小数第二位の計算すること。 ○帯分数+真分数=帯分数(繰り上がりあり)の計算をすること。 ●四角形の向かい合った辺の性質を理解すること。 ●一組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを求めること。	□図形の作図の時間を十分に取って、作図を通して、図形の性質を理解する。 □解答や誤答を、ペアやグループで説明をする活動の時間を増やす。
	6年	○台形の意味や性質、角の大きさについて理解すること。 ○伴って変わる二つの数量の関係を基に必要な数量を見出すこと。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。 ●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を考え、式や言葉を用いて説明すること。	□コンパスや分度器、三角定規を使って図形をした後、作図のプロセスを説明する活動を行う。 □図形を構成する要素などに着目して、基本図形の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明する活動を行う。
理科	6年	○花のつくりや受粉について理解すること。 ○水の状態変化について理解し、それを根拠に事象が起こる理由を予想し表現すること。 ●身の回りの金属についての知識を生かして考えること。 ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎや並列つなぎに関する知識を生かして考えること。	□磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることや、電気を通す物と通さない物があることを関係付けることが必要な場面を設定する。 □電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらを関係付けることが必要な場面を設定する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○将来の夢や目標をもっているという回答している子どもが多い。 ●「学校に行くのが楽しい」という質問に対しては否定的な回答が多い。 ●「自分と違う意見について考えること」についての肯定的な回答が少ない。 ●友達関係に満足していることが少ない。 ●話し合い活動で、自分の目標を決めて取り組む意識が低い。 ●学習が将来役に立つことへの自覚が低い。 ●問題が解けないと諦めてしまう(特に算数)。	□学級活動の話し合いや総合的な学習の時間での探究的な学びを充実させる。 □キャリア教育の充実によって、何のために学習するのかという意識を高める。また、やりたい自分や果たしたい役割についての意欲を高める。 □読書活動や探究的な学びの中で、本やインターネットを使った情報を活用する学習を楽しむ機会を増やす⇒研究の推進 □個に応じた学習方法を見極めたり、個に応じた指導支援を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●学校でのタブレット活用(授業以外)状況に課題がある(タイピングなどゲーム的な活用が多く、探究的な学びの方向付けに課題がある)。 ●タブレット活用の基礎基本や効果的活用(情報整理、プレゼンテーション作成など)。 ●読書に関して、家庭での読書量は少ない。1時間以上本を読む割合が少ない。ほとんどが30分以下。 ●読書に対する肯定的意見が極端に少ない。	□タブレットの効果的に活用する機会を設けて(朝学習の時間、休み時間を使った調べ学習など)、家庭学習へ繋げる。 □単元(次の授業)を見通した家庭学習の充実(読書活動や情報活用した学習へ繋げる)。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●基本的な生活習慣の確立に課題がある(就寝時刻が安定していない)。 ●自然の中で遊んだり観察したりする機会が少ない。 ●地域貢献に対する意欲が低い。	□家庭学習の意義や時間の確保についての情報発信を充実させる(学級だより、保健だより、研究だより)。 □就寝時刻を安定させ、生活習慣の確立を図る。 □地域と協力した学習機会をさらに増やす(コミセンによる夏休み中の感想文指導、宿題指導の発展)。